



SCUBAPRO®

**Galileo 2
(G2)
ユーザーマニュアル**



deep down you want the best

scubapro.com

GALILEO 2 (G2) ユーザーマニュアル

G2ダイビングコンピューター - あらゆるダイビングに対応。

SCUBAPROのダイブコンピューター「G2」をご購入くださり、誠にありがとうございます。皆様のダイビングの素晴らしいパートナーになれる事と思います。本書では、SCUBAPROの最新テクノロジーとG2の主な機能や特長について説明していきます。SCUBAPROダイビング器材の詳細は、www.scubapro.comで確認してください。



⚠ 重要

SCUBAPRO G2を使用する前に、同梱されている「Read First」ブックレットをよくお読みになり、理解を深めてください。

⚠ 注意

- G2の深度等級は120m/394フィートです。
- ダイブコンピューターモードの場合、115m/377フィート～120m/394フィートの深度になるとディスプレイに「ゲージ切り替え」というメッセージが表示され、120m/394フィートより深くなると自動的にゲージモードに切り替わり、それ以降のダイビング中は減圧ダイビング用コンピューターとして使用できなくなります。
- 1.6barを上回る酸素分圧（圧縮空気を呼吸する場合、深度67m/220フィートに相当）でのダイビングは非常に危険であり、重症または死亡にいたる危険があります。



G2は、重要な安全要件である欧州連合指令89/686/EECに準拠した個人用保護具です。RINA SpA (Via Corsica 12, I-16128 Genoa, 公認機関番号0474) により、欧州規格EN 250:2014 (EN 250:2014: 呼吸器具 - 閉回路自給式圧縮空気ダイビング機器 - 要件、試験、マーキング) の遵守が証明されています。G2ダイブ機器は、EU指令2014/30/EUにも準拠しています。

規格EN 13319: 2000

G2ダイブ機器は、欧州規格EN 13319: 2000 (EN 13319: 2000 - 深度計および一体式深度・時間計測機器 - 機能と安全の要件、検査方法) に準拠しています。

目次

1. G2の概要	8
1.1 電源のコンセプトと充電	8
1.2 操作モード	10
1.3 G2をオンにする	10
1.4 NO DIVE警告	12
1.5 NO FLY時間 (飛行機搭乗待機時間)	12
1.6 SOS	12
1.6.1 緊急時の情報	13
1.7 所有者情報	13
1.8 高圧トランスミッターのマウンティングとペアリング	13
1.9 SCUBAPRO Human Factor Diving™	16
1.10 G2をオフにする	16
2. G2の設定とメニュー	17
2.1 酸素設定	19
2.1.1 レクリエーション (初期設定)	19
2.1.2 マルチガス (PMG)	19
2.1.3 トライミックス	20
2.1.4 CCR	20
2.1.5 MOD設定	21
2.2 ダイブ設定	21
2.2.1 MBレベル	21
2.2.2 ダイブモード (アルゴリズム選択)	22
2.2.3 安全停止タイマー	22
2.2.4 最大酸素分圧	22
2.2.5 水の種別	22
2.2.6 ナイトロック リセット時間	23
2.2.7 水面最大時間	23
2.2.8 OTU設定	23
2.2.9 完全サイレントモード	25
2.2.10 サイドマウント	26
2.2.11 CCR	26
2.2.12 トライミックス	27
2.2.13 PDIS	27
2.2.14 PMG	27
2.3 アブネアダイブ	27
2.3.1 最大デュアル深度アラームを設定する	28
2.3.2 深度増加警告を設定する	28
2.3.3 ダイブタイムインターバル警告を設定する	29
2.3.4 サーフィスインターバル警告を設定する	29
2.3.5 上昇速度アラームを設定する	29
2.3.6 心拍低下アラーム	29
2.3.7 水密度	30
2.4 デジタルコンパス	30
2.4.1 コンパス使用	31
2.4.2 自動オフまでの時間	31
2.4.3 偏角	31

2.5	高度計	32
2.6	警告設定	32
2.6.1	最大潜水深度の警告	32
2.6.2	CNS O ₂ =75%	33
2.6.3	No stop time = 2 min	33
2.6.4	減圧停止が必要	33
2.6.5	最大潜水時間警告	33
2.6.6	タンク残圧	34
2.6.7	RBT = 3分	34
2.6.8	タンク圧シグナル	34
2.6.9	レベルストップが必要	35
2.6.10	MB停止を無視	35
2.6.11	MBレベル引き下げ完了	35
2.6.12	L0 no stop time = 2 min	35
2.6.13	L0で減圧停止が必要	36
2.7	時計設定	36
2.7.1	時計アラーム	36
2.7.2	時間	37
2.7.3	タイムゾーン	37
2.8	その他の設定	37
2.8.1	デバイス情報	37
2.8.2	ガス関連	38
2.8.3	タンクリザーブ	38
2.8.4	RBT警告またはアラーム	38
2.8.5	運動負荷感度	38
2.8.6	残圧バーグラフ	39
2.8.7	ガス一覧	39
2.8.8	ペアリング	39
2.8.9	バックライト点灯時間	39
2.8.10	バックライト強度	40
2.8.11	水検知	40
2.8.12	初期設定	40
2.8.13	機能アップグレード	41
2.8.14	ソフトウェアアップグレード	41
2.8.15	フラッシュメモリフォーマット	41
2.9	パーソナライズ	42
2.9.1	画面設定	42
2.9.2	言語	42
2.9.3	スタートアップ画像	42
2.9.4	希望する単位を設定する	43
2.9.5	運動負荷	43
2.9.6	所有者情報を表示	44
2.9.7	緊急時の情報	44
2.9.8	ディスプレイカラー	44
2.10	画像	45
2.11	ダイブプランナー	45
2.11.1	減圧不要プラン	45
2.11.2	減圧プラン	46

2.12	ヘルプ	46
2.13	Bluetooth	46
2.14	ログブック	46
2.14.1	アップネアログ	48
3.	G2を使ったダイビング	49
3.1	陸上でのダイブモード	49
3.1.1	レクリエーション(初期設定)	49
3.1.2	PMG	49
3.1.3	トライミックス	50
3.1.4	サイドマウント	50
3.1.5	CCR	50
3.1.6	サーフィスインターバル、ダイビング禁止、CNS%カウンター	50
3.2	ダイビング中のボタンの機能	51
3.3	高地でのダイビング	53
3.3.1	ダイブ後の高度クラス、高度警告	53
3.3.2	高度と減圧アルゴリズム	53
3.3.3	禁止高度	54
3.3.4	高所の湖での減圧ダイビング	55
3.4	ナイトロックスでのダイビング	55
3.4.1	テクニカルダイビング	57
3.4.2	複数の混合ガスによるダイビング	57
3.4.3	トライミックスモードでのダイビング	61
3.4.4	CCRモードでのダイビング	63
3.5	警告とアラーム	64
3.5.1	警告設定	64
3.5.2	最大深度	64
3.5.3	CNS O ₂ = 75%	64
3.5.4	ノーストップ = 2分	65
3.5.5	減圧停止が必要になった	65
3.5.6	潜水時間	65
3.5.7	タンク残圧	66
3.5.8	RBT = 3分	66
3.5.9	タンク圧シグナル	66
3.5.10	レベルストップが必要	67
3.5.11	MB停止を無視	67
3.5.12	MBレベル引き下げ完了	67
3.5.13	LOノーストップ = 2分	67
3.5.14	LOで減圧が必要	68
3.6	アラーム	68
3.7	浮上速度	68
3.7.1	MOD/ppO ₂	70
3.7.2	CNS O ₂ = 100%	70
3.7.3	タンクリザーブ圧に到達した	70
3.7.4	減圧停止を急った	71
3.7.5	RBT = 0分	71
3.7.6	バッテリー低下	71

3.8	表示情報	72
3.8.1	ダイビング中の表示設定	72
3.8.2	ブックマークを設定する	75
3.8.3	ストップウォッチタイマー	75
3.8.4	安全停止タイマー	76
3.8.5	バックライト	76
3.8.6	コンパス	76
3.9	MBレベルでのダイビング	77
3.9.1	MBレベルL0とL5でのダイビングの比較	77
3.10	PDIS(プロファイル依存中間停止)	77
3.10.1	PDISの概要	77
3.10.2	PDISのメカニズム	79
3.10.3	複数の混合ガスを使ったダイビングでの特別な考慮事項(G2)	79
3.10.4	PDISによるダイビング	80
3.11	ゲージモード	81
3.12	アプネアモード	82
4.	G2のオプション	83
4.1	バンジーアームストラップ	83
4.2	ワイヤレス高圧トランスミッター	83
4.3	皮膚温度・心拍ベルト	83
4.4	Bluetooth USBスティック	84
5.	G2のインターフェースとLogTRAKの概要	84
5.1	G2をUSBインターフェースを介して充電・使用する	85
5.2	Bluetooth	86
5.2.1	G2にLogTRAKから接続する	86
5.2.2	ダイブプロファイルをダウンロードする	87
5.2.3	G2で警告/設定を変更し、コンピューター情報を読む	87
5.2.4	USBフラッシュディスクの操作	88
6.	G2のお手入れ	89
6.1	フラッシュメモリフォーマット	89
6.2	技術情報	90
6.3	メンテナンス	90
6.4	トランスミッターのバッテリーを交換する	91
7.1	心拍ベルトのバッテリーを交換する	91
7.1	保証	91
8.	用語	93
9.	索引	95

G2はダイビング中に携帯できる高機能な機器であり、深度、潜水時間、減圧に関する正確な情報を提供します。

G2ユーザーマニュアルは6つのセクションに分かれています。

G2の概要:このセクションでは、G2ダイブコンピューターの概要、操作モード、および陸上での主な機能について説明します。

G2の設定とメニュー:このセクションでは、G2の設定について説明します。

G2を使ったダイビング:このセクションでは、G2をダイブコンピューターとして使用する方法を説明しながら、G2によるダイビングをご紹介します。安全で楽しいダイビングのためにG2ができることをすべて説明します。

G2のオプション:このセクションでは、追加オプションとして購入可能なG2のアクセサリについて簡単に説明します。これらを購入すれば、あらゆる状況でダイブコンピューターを最大限に活用することができます。

G2のインターフェースとLogTRAKの概要:このセクションでは、パーソナライズやカスタマイズについて説明します。設定の変更方法や、ログブックをダウンロードして管理する方法を説明します。

G2のお手入れ:このセクションでは、新しいダイブコンピューターのケア方法について説明します。

1. G2の概要

1.1 電源のコンセプトと充電

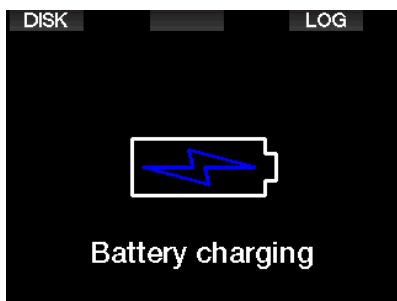
G2は充電式リチウムイオンバッテリーで駆動します。初めてダイブコンピューターを使用する前に、バッテリーをフル充電することをお勧めします。

バッテリーを充電するには、下図のようにG2に電源/USBケーブルを接続します。

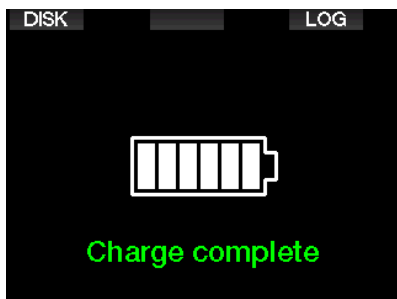


次に、ケーブルのもう一方の端をUSB充電器または給電可能なUSB機器に接続します。この時点で、G2のディスプレイに次のようなバッテリー充電中のシンボルが表示されます。

注: G2のバッテリーが完全放電すると、安全に起動できるレベルまでバッテリーが充電されるまで、ディスプレイには何も表示されません。この場合、USBを外さないようにしてください。また、ボタンを押してG2の起動を試みないでください。少なくとも30分間はG2を充電状態のままにしてください。



充電は続きますが、3分後に上のディスプレイが消えます。バッテリーがフル充電されたら、次のディスプレイが表示されます。



G2は、バッテリーが危険域に達すると、次のメッセージを表示して警告します。



さらに、現在の充電状態を示すバッテリーアイコンが、メインの時間表示の上に表示されます。

▲ 注意

バッテリー残量が少ない状態でダイビングを始めると、ダイビング中にG2がシャットオフする可能性があります。このようなアクシデントに備えて、常にバックアップ機器を携帯してダイビングを安全に完了できるようにしてください。G2がダイビング中にシャットオフされると、48時間経過するまでゲージモードのままロックされます（ゲージモードでの操作については、「ゲージモード」の章を参照してください）。

👉 注：バッテリーが低下した状態でG2を保管すると、完全放電に至り、バッテリーの寿命が短くなります。

▲ 注意

ダイビング中、バッテリー充電レベルの表示が1区画まで下がると、ディスプレイが自動的に消灯してエネルギー消費を抑えます。ただし、右ボタンを押すことで、ディスプレイを手動でチェックすることができます。

▲ 注意

「チャージバッテリー!」という警告が表示される危険域に達すると、G2はダイビングを開始しません。この状態のG2をダイビングに使用しないでください。



▲ 注意

G2のバッテリーが寿命に達したときは、必ずSCUBAPRO正規代理店まで交換をご依頼ください。ご自分でG2を開けたり、バッテリー交換を試みないでください。

1.2 操作モード

G2には、4つの操作モードがあります。

- 充電およびUSB コミュニケーションモード:**
 USBデバイスにG2を接続すると、G2のバッテリーが自動的に充電を始めます。同時に、LogTRAKプログラムによってフラッシュメモリーまたはログブックにアクセスできます。
- スリープモード:**このモードでは、ディスプレイがオフになりますが、G2は体内残留窒素排出時間の計算を続け、周囲圧で高度の変化をチェックします。このモードは、陸上で3分以上操作がない場合に自動的に起動します。
- サーフィスモード:**ダイビング後、または手動で起動するとディスプレイがオンになり、設定を変更したり、G2をボタン操作できます。このモードではBluetoothインターフェースを起動できます。
- ダイブモード:**このモードは、コンピューターが深度0.8m/3フィートを超えると起動します。このモードでG2は、深度、時間、温度、ワイヤレスセンサーをチェックします。このモードでは減圧計算が行われます。

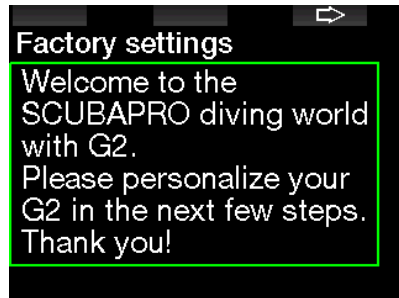
1.3 G2をオンにする

G2をオンにするには、右ボタンを長押しします。

☞ 注:USBに接続されている場合、G2をオンにできません。

G2を初めて起動するときは、基本的なセットアップ(言語選択、時刻設定など)が必要になります。G2に表示される指示に従ってください。画面の表示に従ってボタン操作するだけです。

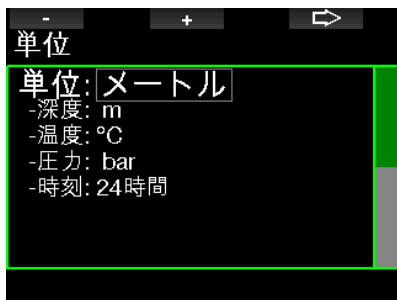
☞ 注:G2をメニュー8.7.(初期設定)でリセットした場合、以下の基本的なステップも必要になります。



右ボタンを押します。



左ボタンまたは中央ボタンで言語を選択します。次に、右ボタンを押して選択を確定します。



左ボタンまたは中央ボタンでそれぞれの単位を選択して、右ボタンで確定します。



左ボタンまたは中央ボタンでタイムゾーンを設定して、右ボタンで確定します。

この初回セットアップ後にG2が起動して、いわゆるメインの時刻表示になります。このディスプレイでは、メインの場所に現在時刻が表示されます。



G2のボタンの機能は、画面で確認できません。たとえば、上の画面では、左ボタンを押すとメインメニューが表示され、中央ボタンを押すとログブックが表示され、右ボタンを押すとディスプレイが暗くなります。これらの機能ラベルは、現在の操作モードに応じて変化する場合があります。

☞ 注: G2ボタンには2種類の押し方があります。

1. 「短く」押す。ほとんどの場合にラベル表示された機能のために使用する標準的な押し方です。
2. 長押しする。この方法は、特別な場合にのみ使用します。本書では説明しますが、画面のラベルには表示されません。

水面でのボタンの機能を次の表に示します。

	左ボタン		中央ボタン		右ボタン	
	押す	長押し	押す	長押し	押す	長押し
スキューバ/ゲージ	メインメニュー	酸素設定	ログブック	ガス一覧表	バックライト	コンパス
				画像		
アブネア	メインメニュー	手動でのダイビング開始	ログブック	画像	バックライト	コンパス

1.4 NO DIVE警告

リスクが増大したことをG2が検知すると(過去のダイビングによるマイクロバブル蓄積の危険性がある場合や、CNS O₂レベルが40%を超えた場合)、次のダイビングをすぐに行わないようにアドバイスするために**NO DIVE** (ダイビング禁止) シンボルが画面に表示されます。ダイブモードディスプレイに、次のダイビングまで待機する必要があります。その時間が表示されます。



NO DIVE警告がコンピューター画面に表示されている場合は、ダイビングを行わないでください。この警告が発生した原因が、CNS O₂が40%を超えたことではなくマイクロバブルの蓄積である場合、無視してダイビングを行うと、減圧不要時間が短くなるか、減圧停止時間が長くなります。さらに、ダイビング終了時のマイクロバブル警告の時間が大幅に長くなります。

1.5 NO FLY時間 (飛行機搭乗待機時間)

NO FLY時間とは、飛行機に搭乗すると気圧の低下により減圧症を発症する危険性がある時間であり(高所に移動する場合と同様)、ダイブコンピューターの減圧モデルに従って算出されます。この制限時間が過ぎるまで、「NO FLY」の文字とカウントダウンタイマーが表示されたままになります。

高度警告と高所でのダイビングについて詳しくは、「ゲージモード」を参照してください。

▲ 注意

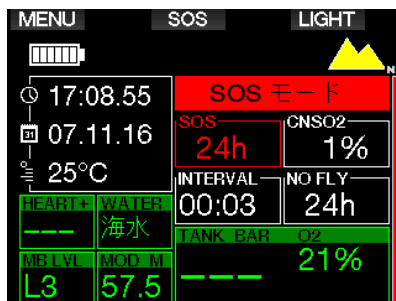
「NO FLY」シンボルとカウントダウンタイマーが表示されているときに飛行機に搭乗すると、重症または死亡にいたる危険があります。

1.6 SOS

推奨された減圧停止に従わずに、水深0.8m/3フィートより浅い深度に3分以上留まると、**SOS**モードに切り替わります。**SOS**モードになると、G2はロックされ、その後の24時間は減圧ダイブコンピューターとして使用できなくなります。**SOS**ロック後24時間以内にダイビングで使用すると、自動的にゲージモードになり、減圧情報が表示されません。

▲ 注意

- 減圧停止の指示を無視すると、重症や死亡にいたる危険性があります。
- ダイビング後に減圧症の兆候や症状が見られた場合、ダイバーは緊急で治療を受けなければ、重症または死亡にいたる危険性があります。
- 減圧症の治療としてダイビングをしないでください。
- コンピューターが**SOS**モードになったときは、ダイビングをしないでください。



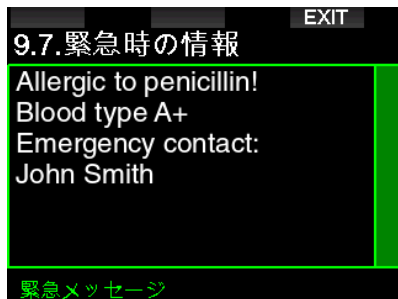
ディスプレイには、体内残留窒素の表示と同じ情報に加え、SOSモードのメッセージが表示されます。

NO FLY時間の代わりに、24時間のカウントダウンが表示されます。中央のボタンのラベルが「LOG」から「SOS」に変わり、これを押すと緊急メッセージが表示されます。このディスプレイ用の緊急時の情報は、LogTRAKを使用して入力できます。緊急メッセージが表示された場合、「LOG」ボタンを押すと最後のダイブの詳細が表示されます。

☞ 注：省電力モードを使用したにも関わらず深度がある場所でバッテリーが完全放電すると、G2はSOSモードになり、残りの体内残留窒素排出時間を問わず、48時間ゲージモードのままロックされます。

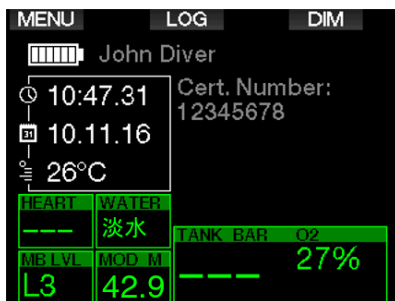
1.6.1 緊急時の情報

緊急時の情報を追加するには、WindowsまたはMac版のLogTRAKを使用する必要があります。「G2のインターフェースとLogTRAKの概要」セクションを参照してください。



1.7 所有者情報

時刻表示をカスタマイズして自分の名前などのテキストを追加するには、WindowsまたはMac版のLogTRAKを使用する必要があります。「G2のインターフェースとLogTRAKの概要」セクションを参照してください。

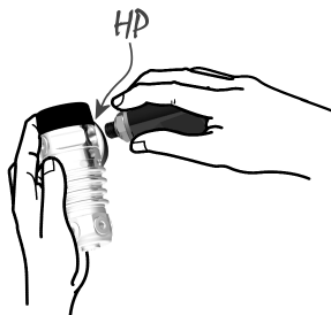


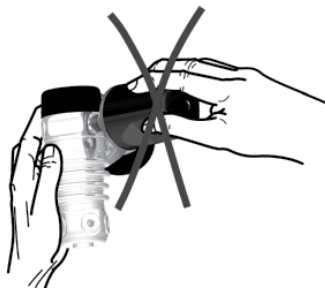
☞ 注：G2を紛失した場合に備え、所有者情報とともに連絡先情報を追加することをお勧めします。

1.8 高圧トランスミッターのマウンティングとベアリング

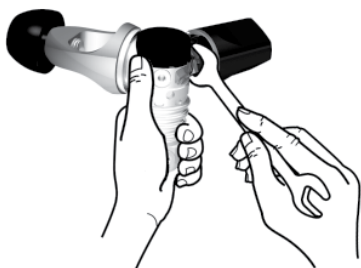
G2は、複数のSmartシリーズの高圧トランスミッターからタンク残圧の情報を受信することができます。それぞれのトランスミッターは、ファーストステージの高圧ポートに取り付ける必要があります。

トランスミッターを取り付けるには、まずファーストステージから高圧ポートプラグを取り外してから、トランスミッターを所定の場所にねじ込みます。

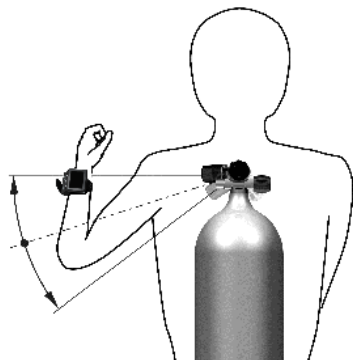




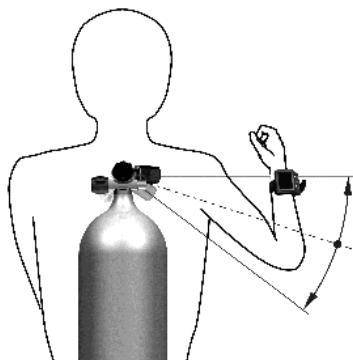
注：トランスミッターを締め付けるには、適切なレンチを使用します。締めすぎないように注意してください。



Smartトランスミッターは、高周波を用いてG2と通信します。通信を最適に行うには、トランスミッターを下図のように配置することをお勧めします。



左手用のトランスミッターの位置

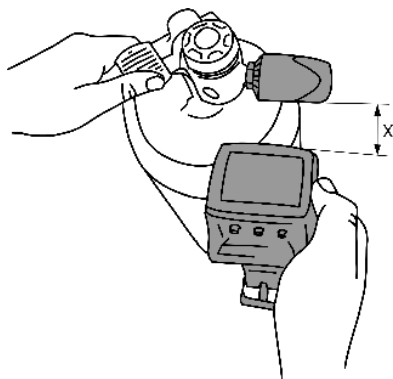


右手用のトランスミッターの位置

Smartトランスミッターから受信したタンク圧シグナルをG2に表示するには、まず、コード化された干渉が発生しない通信ラインを確立する必要があります。この手順は、トランスミッターごと一度だけ行います。

G2とトランスミッターのペアリングには2種類の方法があります。

- 1.自動ペアリングは、以下の手順で実行します。
 - ・タンクがフルの状態、ファーストステージにSmartトランスミッターを取り付けます。
 - ・G2をオンにして、時刻表示であることを確認し、下図のようにトランスミッターの近く(x)に持ちます。
 - ・タンクバルブを開きます。

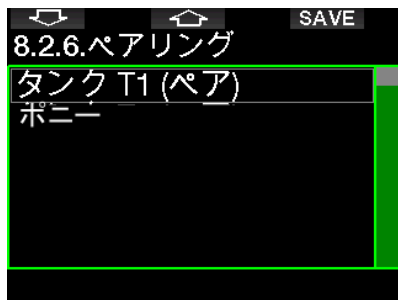


2.手動ペアリングは、以下の手順で実行します。

- ・タンクがフルの状態、ファーストページにSmartトランスミッターを取り付けます。
- ・G2をオンにして、メニュー**8.2.6.(トランスミッターとペア)**を選択します。
- ・タンクバルブを開きます。

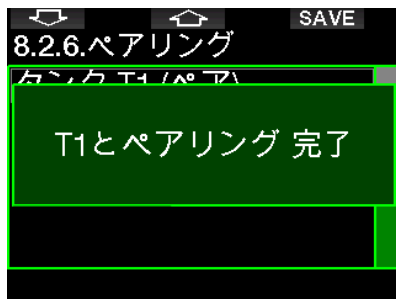
圧力がかかると、SmartトランスミッターがG2にペアリングシーケンスを送信します。G2がこの情報を受信すると、ディスプレイが変化し、タンクのラベルが一覧表示されます(T1、T2など)。

タンクT1は、常にダイビング開始時のメインタンクとなります。その他のタンクは、複数の混合ガスでのダイビングに使用します(「**複数の混合ガスを使ったダイビング**」の章で説明します)。



矢印ボタンを使用して、トランスミッターに割り当てたいタンクを選び、SAVEを押して選択をロックします。「**PAIRING TO T1 SUCCESSFUL**」というペアリング確認メッセージが表示されます。

操作を完了したくない場合、右ボタンを長押しすると、「**ペアリング キャンセル**」というメッセージが表示されます。ペアリングは、タンクの選択後、3分以内にSAVEを押さない場合にもキャンセルされます。



注：トランスミッターは、ペアリングを行う前に40秒以上、加圧されていない状態しておく必要があります。これを怠ると、ペアリングシーケンスが送信されません。

また、1つのトランスミッターとペアリングできるのは1つのタンクのみです。同じトランスミッターを2つ目のタンクにペアリングすると、最初のペアリングが消去されます。ただし、1つのトランスミッターに複数のG2をペアリングすることはできません。

T1とG2のペアリングが成功すると、ディスプレイにBARまたはPSIの単位でタンク残圧が表示されます。タンクT1をペアリングしていない場合、タンク残圧ではなく「NO P」と表示されます。

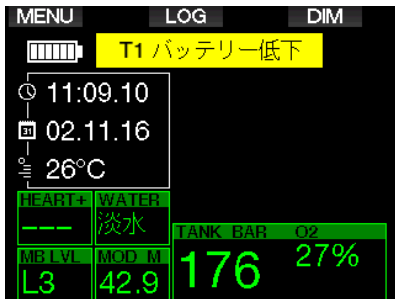
T1をペアリングしたにも関わらずG2が信号を受信しない場合、タンク残圧の値ではなく「---」と表示されます。

陸上では、「**ガス一覧**」の章で説明するように、タンクT2、T3などの状態がガス一覧表に表示されます。



☞ 注:

- Smartトランスミッターの有効範囲は約1.5m/5フィートです。
- バッテリーの寿命を最大化するために、40秒以上圧力に変化がないと、トランスミッターの更新頻度が低下します。また、圧力が14bar/200psi以下になるとオフになります。
- トランスミッターのバッテリーが低下すると、下図のように、このトランスミッターに割り当てられたタンクを示す画面メッセージで通知があります。



トランスミッターのバッテリー交換方法については、「トランスミッターのバッテリーを交換する」の章を参照してください。

1.9 SCUBAPRO Human Factor Diving™

G2には、特許取得済みの水中心拍モニター、皮膚温度モニター、呼吸モニターが搭載されています。これらの機能は、身体の反応にもとづいて各ダイブをカスタマイズし、ダイビング体験をより豊かにするデータを提供し、上級ダイバーになるサポートをします。

SCUBAPRO Human Factor Diving™を貫く哲学については、www.scubapro.comから「HEARTRATE MEASUREMENT FOR BETTER WORKLOAD ASSESSMENT」(T. Dräger博士、U. Hoffmann博士共著、2012年発行)をご覧ください。

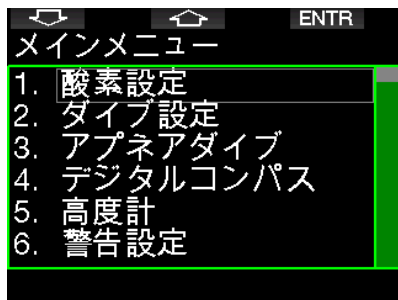
1.10 G2をオフにする

G2をアクティブに使用しないか、Bluetoothリンクをアクティブにしないで3分間経過すると、自動的にオフになります。時刻表示で右ボタンと左ボタンを同時に長押しすると、G2がオフになります。

2. G2の設定とメニュー

時刻表示から「MENU」を押すと、設定フォルダに入ります。メニューを最初に開いた段階では、まだ設定に入っていません。そのため、実際にメニュー内に入るには、「ENTER」ボタンを押す必要があります。一部のメニューは複数階層に分かれています。「ENTER」ボタンを長押しすると、前の階層に戻ります。

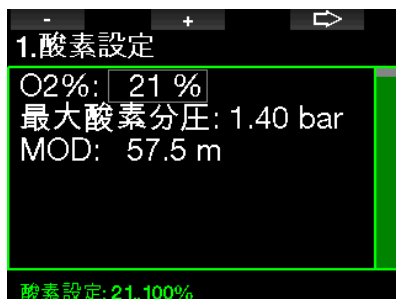
また、右ボタンと左ボタンを同時に長押しすると、時刻表示に戻ります。



矢印ボタンを押してメニュー内を移動し、「ENTER」を押してメニューを選択します。複数の項目が含まれるメニューの場合、画面右側に現在の場所を示すバーが表示されます。

言語設定を問わず、すべてのメニューに番号が付いており、簡単に見分けることができます。

すべてのサブメニューは同じように機能します。つまり、変更できる値があると、その選択範囲が画面下部に表示されます(下図を参照)。サブメニューも、x.yという小数形式(x=メインメニュー、y=サブメニュー)で表示されます。



この場合、左ボタンと中央ボタンが「-」と「+」のように表記されます(これにより、現在の選択を編集できます)。右側の矢印ボタンにより、次のフィールドに移動でき、「SAVE」を押すと入力した値が保存されます。画面の右側には、値をアナログメーターとして表現するナビゲーションバーが表示されます。

メインメニューには以下の設定があります。

番号	メニュー	番号	メニュー
1	酸素設定	6.10.	MB停止を無視
2	ダイブ設定	6.11.	MBレベル引き下げ完了
2.1.	MBレベル	6.12.	L0ノーストップ = 2分
2.2.	ダイブモード	6.13.	L0で減圧停止が必要
2.3.	安全停止タイマー	7	時計設定
2.4.	最大酸素分圧	7.1.	時計アラーム
2.5.	水の種別	7.2.	時間
2.6.	ナイトロックス リセット時間	7.3.	タイムゾーン
2.7.	水面最大時間	8	その他の設定
2.8.	OTU設定	8.1.	デバイス情報
2.9.	窒素排出リセット	8.2.	ガス関連
2.10.	完全サイレントモード	8.2.1.	タンクリザーブ
2.11.	サイドマウント	8.2.2.	RBT = 0分
2.12.	CCR	8.2.3.	運動負荷感度
2.13.	トライミックス	8.2.4.	残圧バーグラフ
2.14.	PDIS	8.2.5.	ガス一覧
2.15.	PMG	8.2.6.	ペアリング
3	アブネアダイブ	8.3.	バックライト点灯時間
3.1.	最大深度	8.4.	バックライト強度
3.2.	深度増加	8.5.	水検知
3.3.	ダイブタイムインターバル	8.6.	初期設定
3.4.	サーフィスインターバル	8.7.	機能アップグレード
3.5.	ローハートレート	8.8.	ソフトウェアアップグレード
3.6.	上昇速度	8.9.	フラッシュメモリフォーマット
3.7.	水密度	9	パーソナライズ
4	デジタルコンパス	9.1.	画面設定
4.1.	コンパス使用	9.2.	言語
4.2.	自動オフまでの時間	9.3.	スタートアップ画像
4.3.	偏角	9.4.	単位
5	高度計	9.5.	運動負荷
6	警告設定	9.6.	所有者情報を表示
6.1.	最大深度	9.7.	緊急時の情報
6.2.	CNSO ₂ = 75%	9.8.	ディスプレイカラー
6.3.	ノーストップ = 2分	10	画像
6.4.	減圧停止が必要	11	ダイブプランナー
6.5.	潜水時間	11.1.	ダイブプラン
6.6.	タンク残圧	12	ヘルプ
6.7.	RBT = 3分	13	Bluetooth
6.8.	タンク圧シグナル	13.1.	Bluetooth有効化
6.9.	レベルストップが必要	14	ログブック

これらのメニューを移動して、メニューに慣れることができます。以下では、各選択項目について簡単に説明します。

👉 注:現在のダイビングレベルに応じてメニューシステムを簡単に理解できるように、G2には機能アップグレードという機能が搭載されています。上級ダイバー向けの機能と選択項目は、ダイバーが表示を望まない限りメニューに表示されません(メインメニュー画面に一部のメニュー番号が表示されない場合、これが原因です)。

たとえば、リブリーザーや複数のガスを使ってダイビングしないダイバーに対しては、CCRやPMGのメニューモードを有効化する必要はありません。これにより、メニューシステムがダイビングスタイルに応じてシンプルに保たれます。

2.1 酸素設定

ここでは、使用しているタンクของガス含有量とガスの最大分圧を変更できます。選択した値に対して最大行動可能深度(MOD)が表示されます。ナイトロックスでのダイビングとMODについて詳しくは、「**ナイトロックスでのダイビング**」を参照してください。

2.1.1 レクリエーション(初期設定)

標準的なタンク1本でのダイビングには、酸素21%(空気)から酸素100%までの混合ガスを選択できます。このガスに対して使用するMOD上限に、最大酸素分圧(ppO₂ max)の値が必要です。初期設定は1.40barです。

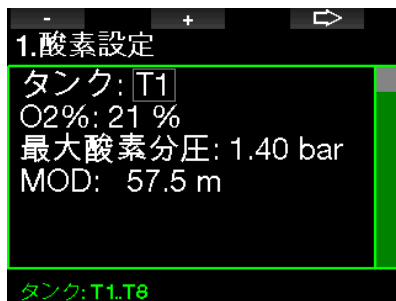
⚠️ 注意

MOD上限は、酸素有害度に基づいて警告深度を定義しますが、それよりも遥かに浅い深度でも窒素酔いがダイバーのスキルに影響を与え、その深度で安全にダイビングを続ける能力を損なう可能性があります。

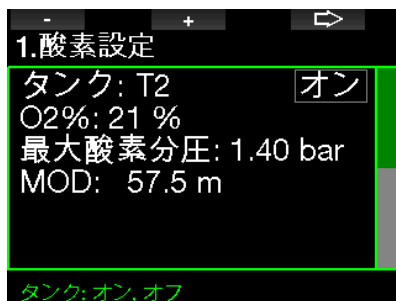


2.1.2 マルチガス(PMG)

PMGを有効化すると、次のように酸素設定が表示されます。この機能について詳しくは、「**複数の混合ガスによるダイビング**」の章を参照してください。



T1が常にダイビング開始時のデフォルトガスとなります。タンク2~8の値は、タンク1と同様に調整できます。



減圧ガスに対して、異なるppO₂設定が可能です。



ppO₂の上限は、メニュー2.4.(最大酸素分圧)で変更できます。

2.1.3 トライミックス

トライミックスを有効化すると、次のように酸素設定が表示されます。この機能を有効化する方法は、「トライミックス」の章を参照してください。



トライミックスモードでは、酸素比率を8%～100%の間で選択することができます。

☞ 注: 体に酸素を十分に供給するために、ダイビング開始時に使用するガスには十分な酸素が含まれている必要があります(トラベルミックスまたはいずれかの減圧ガスを使用できます)。ダイビングは常にT1から開始するため、タンクT1の最小酸素設定は18%になっています。

▲ 注意

絶対最浅深度 (AMD) は最小酸素分圧の値に依存します。アラーム深度がG2のダイビング開始深度である0.8m/3フィートより浅い場合、深度0.8m/3フィートに達するまでアラームは起動しません。この状況は溺死にいたる危険があります。

▲ 注意

水面または浅い深度で、酸素比率21%未満(低酸素ミックス)のガスを呼吸しながら重労働を行うと、気絶により溺れる危険があります。

2.1.4 CCR

CCRモードを有効にすると、次のようにディリュエントタンクが表示されます。他のタンク(T1～T8)はPMGモードと同様に設定できます。この機能を有効化する方法は、「CCR」の章を参照してください。セットポイント1は0.2～0.95barの間で選択でき、MODを定義します。

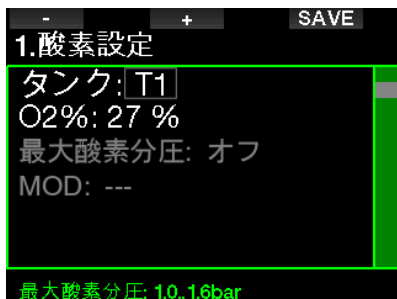


セットポイント2は1.0～1.6barの間で選択できます。水面ではこれより高い値に達することができないため、AMDは設定に対して計算されます。

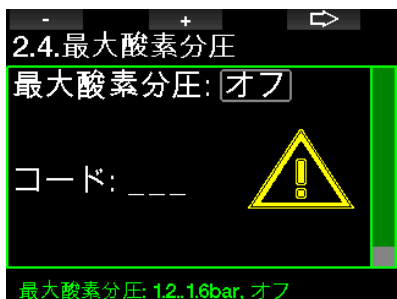


2.1.5 MOD設定

次の画面のように、MOD設定は無効にできません（「---」と表示されています）。



これは、メニュー**2.4. (最大酸素分圧)**で変更する必要があります。



⚠ 注意

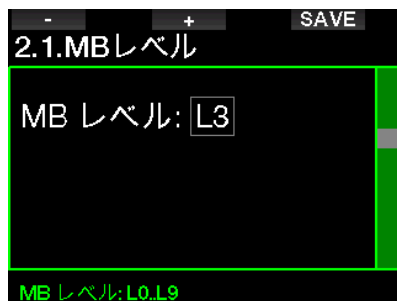
1.4barより高いppO₂でのダイビングは危険であり、気絶により溺れ、死亡にいたる危険があります。

☞ 注: 80%以上の酸素比率を選択すると、ppO₂は1.6barに固定されます。

2.2 ダイブ設定

2.2.1 MBLレベル

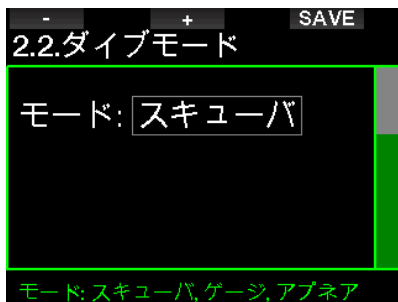
ダイビング中に従いたいマイクロバブル(MB)レベルを選択できます。レベル9が最も厳格で、レベル0が最も厳格ではありません。



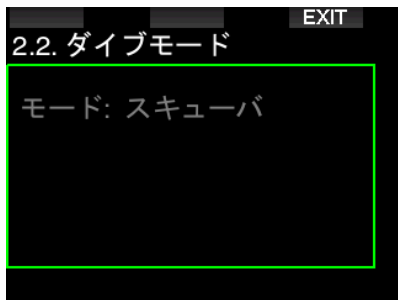
☞ 注: 各MBレベルでのダイビングについては、「**MBレベルでのダイビング**」の章を参照してください。

2.2.2 ダイブモード(アルゴリズム選択)

G2では、モードをスキューバ、ゲージ、アブネアから選択できます。G2をしばらく水に入れないと、次のようなディスプレイになります。



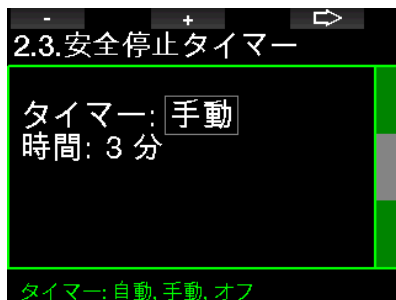
☞ 注:ゲージモードとアブネアモードでは体内残留窒素をトラッキングしないため、これらのモードでダイビングを行ったあと48時間はダイブコンピューターがロックされ、スキューバモードに変更できません。一方、以下のG2はスキューバモードでダイビングしたもので、体内残留窒素排出時間が終了するまでゲージモードまたはアブネアモードに変更できません。



48時間経過するか体内残留窒素の排出が完了する前にモードを切り替えるためには、残留窒素排出リセットメニューに進み、手作業でリセットする必要があります。

2.2.3 安全停止タイマー

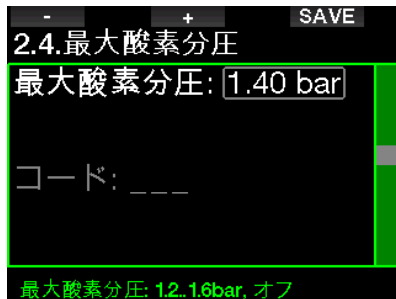
このメニューでは、安全停止タイマーの時間と開始モードを編集できます。



ダイビング中にこの機能を使用する方法は、「安全停止タイマー」の章を参照してください。

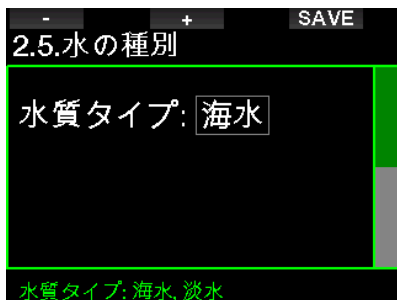
2.2.4 最大酸素分圧

最大酸素分圧の設定は、酸素分圧の上限を定義します。ガスの酸素設定がこの上限より高い場合、どのタンクに対しても選択できません。



2.2.5 水の種別

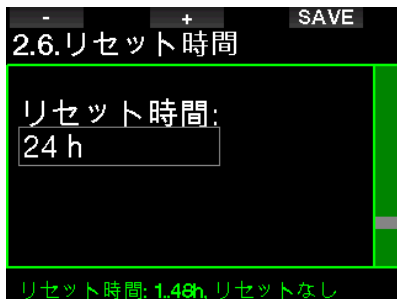
G2は圧力を測定し、水密度を定数として使用して圧力を深度に換算します。海水で深度10m/33フィートの場合、淡水では約10m/34フィートの深度となります。



☞ 注: この設定は、スキューバ、ゲージ、アプネアの各モードで深度を調整します。

2.2.6 ナイトロックリセット時間

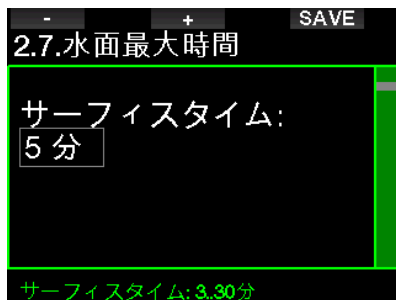
通常はエアのみでダイビングしており、まれにナイトロックでダイビングを行った後でこの設定に戻りたい場合は、G2がエアにリセットされるまでのデフォルト時間を設定しておくことができます。



リセット時間は1~48時間の間で選択できます。あるいは、ナイトロック リセット時間を無効にすることも可能です。「リセットなし」と表示されている場合、ガスのナイトロック リセット時間は無効です。

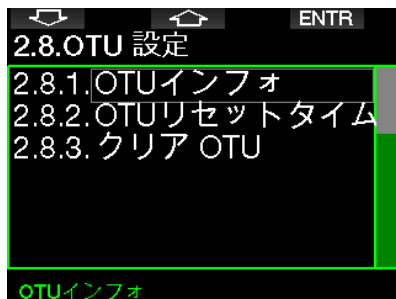
2.2.7 水面最大時間

水面最大時間により、ダイブログを1回に保ちながら、短時間だけ水面に上がって方向を確認することができます。



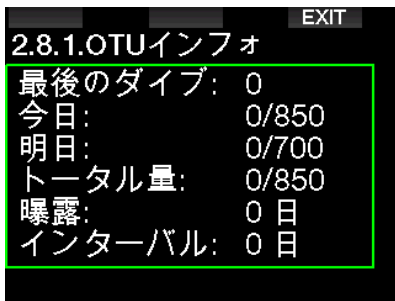
2.2.8 OTU設定

このメニューでは、OTUインフォメーションと設定を編集できます。



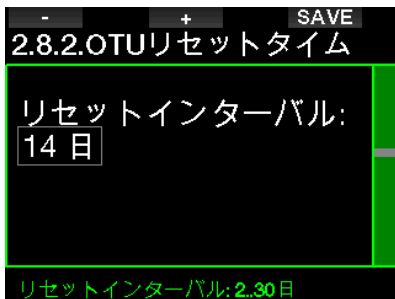
次のOTUインフォメーション画面には、現在のOTUに関連する情報が表示されています。

- 1.最後のダイブでのOTU
- 2.今日のダイブでのOTUと最大許容値
- 3.明日許可されるOTUと最大許容値
- 4.ミッション(一連のダイビング日)中の合計OTU
- 5.曝露(このミッション中に行ったダイビング日数)
- 6.間隔(最後のダイブを行った日からの経過日数)

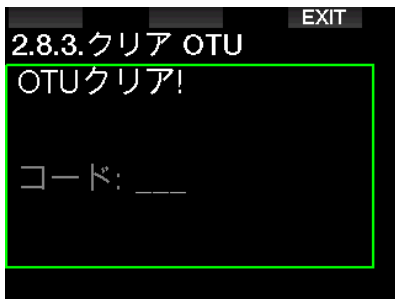


OTUは日単位で計算され、深夜(00:00)に変更されます。上限もそれに従って変わります。

リセットインターバルを定義できます。これは、ログ付けされたダイブのOTUカウンターをクリアする必要がない期間です。



また、OTUを手動でクリアしたい場合、次のメニューで実行できます。



OTUをクリアするには、確認番号313を入力する必要があります。

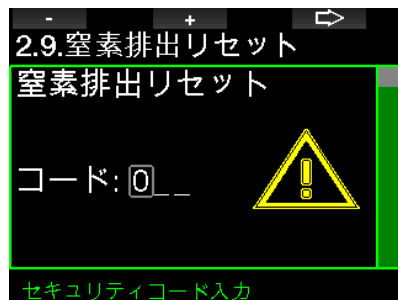
窒素排出リセット

G2では、体内残留窒素排出時間をリセットすることができます。最近のダイビングで蓄積された体内残留窒素の情報がすべてゼロにリセットされ、次のダイビングは反復潜水と見なされません。この機能は、過去48時間以内にダイビングを行っていない他のダイバーにG2を貸す場合に便利です。

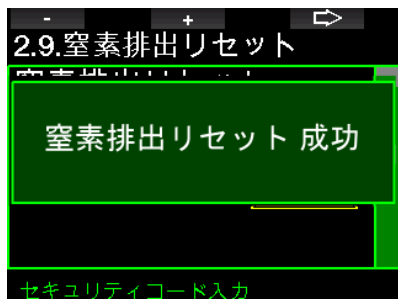
▲ 注意

体内残留窒素排出時間をリセットすると、アルゴリズムの計算が影響を受け、重症や死亡にいたる危険があります。正当な目的なく、体内残留窒素排出時間をリセットしてはいけません。

☞ 注: G2で体内残留窒素排出時間のカウントダウンが続く間は、一部のメニューを変更できません。体内残留窒素排出時間をリセットする場合、保護コード313を入力する必要があります。この手順により、意図しないリセットを回避でき、窒素排出リセットがメモリーに記録されます。次のダイブログに、窒素排出リセット警告が表示されます。



保護コードを正しく入力し、「SAVE」ボタンを押して確定すると、窒素排出リセットが完了し、次の画面が表示されます。



- ☞ 注: 窒素排出のリセット後、すぐにモードをゲージ、アプネア、スキューバに変更できるようになります。ただし、ゲージモードとアプネアモードは体内残留窒素をトラッキングしないため、モード変更間の最初の間隔に従うことをお勧めします。

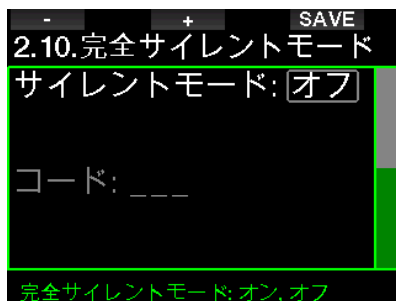
▲ 注意

窒素排出をリセットしてダイビングするのは非常に危険で、重症や死亡にいたる場合があります。正当な理由がない場合、窒素排出をリセットしないでください。

- ☞ 注: バッテリー低下時の自動スイッチオフが行われても、窒素排出はリセットされません。G2は、不揮発性の記憶域に体内残留窒素の情報を記録します。この間、コンピューターは電源を失い、残留窒素の計算は凍結されます。十分なレベルまで充電が進むと、充電中にディスプレイが点灯して体内残留窒素の計算が再開されます。

2.2.9 完全サイレントモード

「ON」を選択すると、ステルスモードが起動し、アラームでも警告でも音声シグナルが鳴らなくなります。(初期設定は「OFF」です。)



▲ 注意

サウンドOFFを選択すると、ダイブモードで音声でのアラームと警告がすべて無効になります。これは大変危険です。

- ☞ 注: サイレントモードの唯一の例外はアラームクロックです。メイン設定をサウンドオフにしても、ビーブ音が鳴ります。

2.2.10 サイドマウント

サイドマウントダイビングでは、通常2本のタンクと2つのレギュレーターを使用し、各セットをダイバーの両サイドに別々に取り付けます。

独立した重複するガス供給システムから、小さいステップを繰り返して均等にガスが消費されるため、片方のシステムに障害が発生しても、もう一方のシステムにダイブを完了できる最大限のリザーブが残されています。



G2のサイドマウントモードが有効(ON)になっている場合、2本のタンクのタンク残圧が同時に表示されます。このモードでのディスプレイの構成について詳しくは、「**サイドマウント**」の章を参照してください。

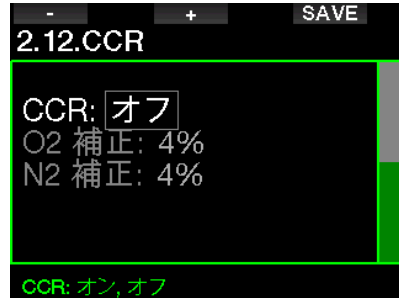
☞ 注: サイドマウントモードを適切に操作するには、両タンクにトランスミッターを取り付ける必要があります。

圧力のステップには、G2が残圧が低いタンクから高いタンクへの切り替えを指示するタンクの圧力差を定義します。10~50barの間でステップを選択するか、「rule of thirds」(1/3の法則)に従うかを選択できます。

☞ 注: サイドマウントモードは、バックマウントのダブルタンクでのダイビングにも使用できます。

2.2.11 CCR

機能が有効になっていれば、ここでリリザーモードも選択(ON)できます。



CCRを有効化すると、デフォルトのオープンサーキットガスの比率がセットポイント設定に変わります。また、ダイブ表示が変わり、酸素およびディリュエントタンクの残圧が同時に表示されます。このモードでのディスプレイの構成について詳しくは、「**CCR**」の章を参照してください。

CCRダイブユニットによってセットポイントの精度が管理され、G2はこの精度の高い数値を使用します。そのため、O₂および不活性ガスの補正を厳格に設定することができます(N₂と表示されますが、TMx オプションを有効にした場合にはHelにも影響を与えます)。

例えば、O₂補正のパーセント(%)値により、CNS%クロック値に通常設定されているppO₂の値が増加し、不活性ガス吸収に通常設定されているppO₂の値が減少します(アルゴリズム)。

2.2.12 トライミックス

機能が有効になっていれば、ここでトライミックスをONに設定できます。



トライミックスをONにすると、ガス比率の表示が標準のO₂/Helになります。また、各ガスのAMD (絶対最浅深度)が表示されます。この機能について詳しくは、「**複数の混合ガスによるダイビング**」の章を参照してください。

2.2.13 PDIS

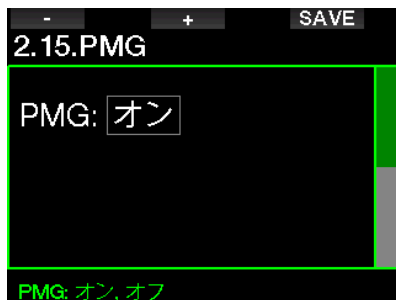
SCUBAPROのダイブコンピューターには、PDIS(プロファイル従属型中間停止)が搭載されており、このメニューで有効にできます。



この機能について詳しくは、「**PDIS(プロファイル依存中間停止)**」の章を参照してください。

2.2.14 PMG

PMG(Predictive Multigas)モードでは、タンクを2~8本使用することが可能です。

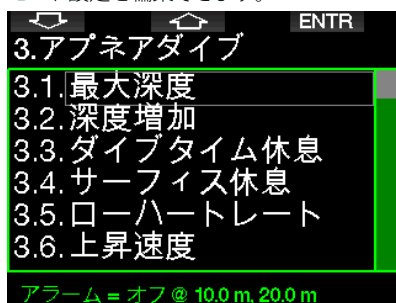


この機能の使用方法について詳しくは、「**複数の混合ガスによるダイビング**」の章を参照してください。

☞ 注: サイドマウントおよびCCRダイビングモードでは、PMGを有効化する必要があります。

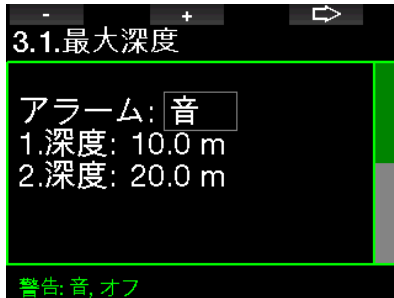
2.3 アプネアダイブ

アプネア機能を選択すると、次のアプネアモード設定を編集できます。



2.3.1 最大デュアル深度アラームを設定する

アプネアモードでは、すべてのアラームを音声方式または無効にできます。



最大深度アラームを有効化した後で、上限を選択できます。最初の深度アラームは5～100m/20～330フィートから選択できます。



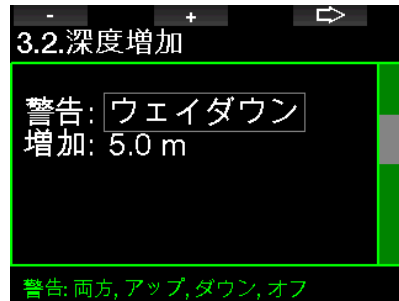
同様に、2番目の深度アラームも5～100m/20～330フィートの間に設定できます。



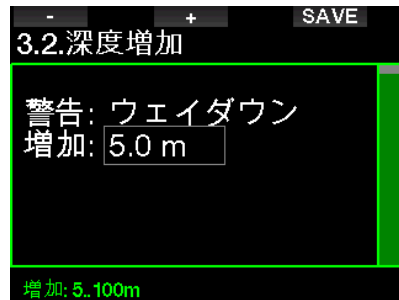
注: 最初のアラームは、注意を喚起するために短時間ですが、2番目のアラームは連続的です。最初のアラームの深度を、2番目のアラームの深度より深くすると、最初のアラームが連続アラームによってかき消されて聞こえません。

2.3.2 深度増加警告を設定する

最大深度アラームとは無関係に、深度増加警告を設定できます。これらの深度警告は潜降に対しても(「ウェイダウン」と表示)、浮上に対しても(「ウェイアップ」と表示)、あるいはどちらの方向にでも設定できます。

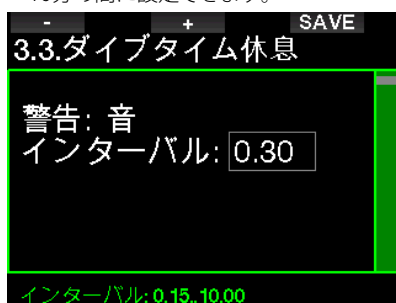


深度増加は5～100m/20～330フィートから選択できます。



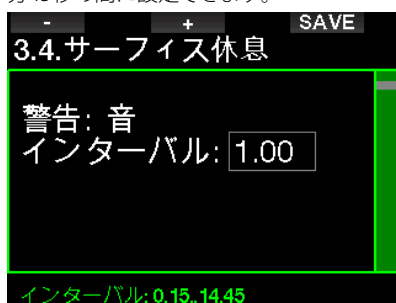
2.3.3 ダイブタイムインターバル警告を設定する

ダイブタイムインターバル警告は15秒～10分の間に設定できます。



2.3.4 サーフィスインターバル警告を設定する

サーフィスインターバル警告は15秒～14分45秒の間に設定できます。



☞ 注: 水面で15分過ぎると、G2は自動的にダイブセッションを終了し、ログブックにこのダイブを保存します。

2.3.5 上昇速度アラームを設定する

毎秒0.1～5.0m/1～15フィートの値を選択できます。



2.3.6 心拍低下アラーム

設定したレベルより心拍が下がると、G2がアラームを起動できます。アラームは35～100bpmの間に設定できます。



2.3.7 水密度



水中の重量とそれによる水圧との間には直接的な関係があり、重量は深度×水密度で計算されます。したがって、ダイブコンピューターに表示される深度は、絶対圧の測定値から取得されます。

ただし、水密度は塩分濃度の関数であるため、湖（淡水）と海（海水）では同じ深度でも圧力の値が変わります。

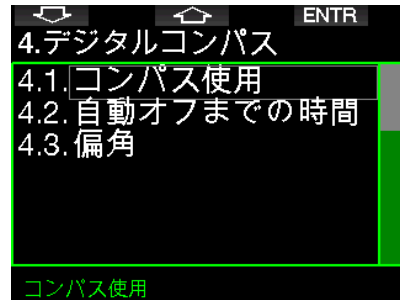
この違いは微小で、表示された深度に対応する誤差（約3%）となります。このため、スキューバモードとゲージモードでは、淡水と海水のどちらでダイビングするのかを定義できます。

減圧計算は絶対圧に基づいて行われるため、海水でダイビングするときにG2を淡水に設定することは（あるいはその逆）許容されます。深度測定値にはやや誤差が生じますが（40m/130フィートごとに約1m/3フィート）、減圧計算は正しく行われます。

アブネアダイビングの場合、減圧計算が行われず、ダイバーの達する最大深度がダイビングの主な目標となるため、深度測定値自体の精度が最も重要な要因となります。G2では、水密度を1.000kg/l～1.050kg/lの間で0.001kg/l刻みで定義できます。（参考のために、スキューバおよびゲージモードでは海水の密度が1.025kg/lに設定されています。）

2.4 デジタルコンパス

この画面では、デジタルコンパスに関する設定を選択できます。



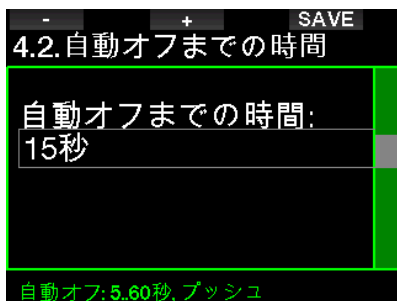
2.4.1 コンパス使用

メニュー4.1(コンパス使用)を起動すると、次のようなコンパス画面が表示されます。



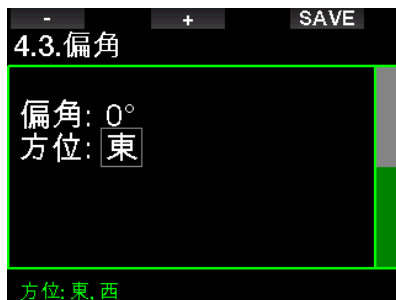
2.4.2 自動オフまでの時間

メニュー4.2.(自動オフまでの時間)で、コンパスがタイムアウトするまでの時間を選択できます。つまり、水面またはダイブ中に起動したコンパスが表示される時間の長さです。タイムアウトは5~60秒の間で設定できます。あるいは、「プッシュオン/プッシュオフ」を選択すると、ボタンを押してスイッチオフされるまでコンパスは表示されたままになります。



2.4.3 偏角

コンパスは地球の北磁極を指します。北極と北磁極の差は、偏角設定で補正されます。偏角は、地球上での所在地に応じて変わります。補正値を0°~90°の間で1°刻みで選択し、方位を東または西から選択できます。



☞ 注:通常、G2のコンパスは再較正の必要がありません。コンパスの方位に大きな永久オフセットがあることに気づいた場合は、SCUBAPRO正規代理店までお問い合わせください。

2.5 高度計

ここでは、現在の高度を確認できます。高度メニューでは、現在の高度を気圧から計算します。現在の高度がわかる場合は高度を調整できます。高度を調整しても、高度クラスには影響を与えません。



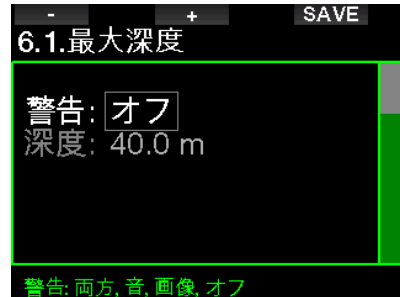
☞ 注：気圧とは、任意の高度での天気と大気圧に応じて変化する変数です。ダイブアルゴリズムでは、高度クラスを気圧から直接的に導き出して使用します。表示される高度は、現在の気圧に基づいて算出されるため、相対的な数値となります。

2.6 警告設定

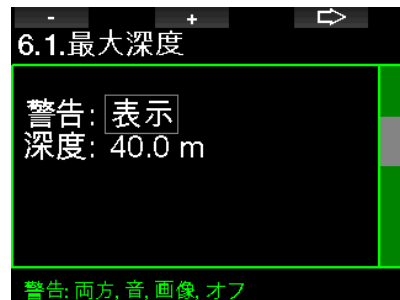
警告の状況は、ダイバーの注意が必要ですが、これを見落としてもすぐに危険になる訳ではありません。ユーザーの判断で、それぞれの警告を有効または無効にできます。

2.6.1 最大潜水深度の警告

最大深度の警告の値は、5～100m/20～330フィートの間で1m/5フィート刻みで選択できます。

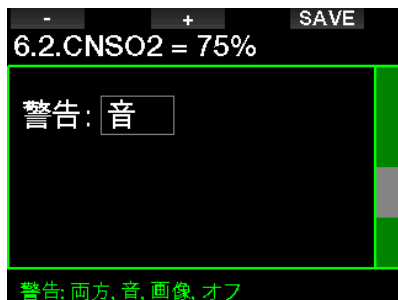


OFFを選択すると警告を無効にできます。表示による警告を選択すると、注意を要する状況が発生したときに警告が表示されます。音による警告を選択すると、注意を要する状況が発生したときに警告音が鳴ります。「BOTH」を選択すると、音と表示の両方で警告が起動します。



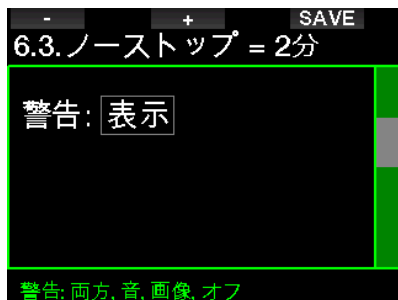
2.6.2 CNS O₂=75%

体内に蓄積された酸素量は、CNSO₂クロックでトラッキングされます。計算されたCNS O₂の値が75%に達すると、この警告が起動します。



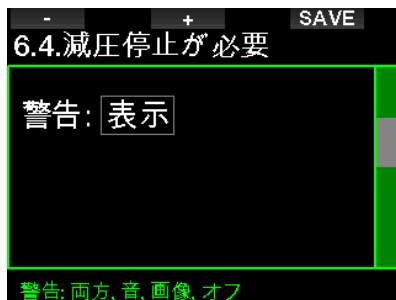
2.6.3 No stop time = 2 min

意図しない減圧ダイビングを避けるために、減圧不要時間が2分に達したときに警告するようG2を設定できます。これは、現在選択されているMBレベル減圧不要時間に適用されます (MBレベルでのダイビングについては「MBレベルでのダイビング」の章を参照してください)。これにより、減圧停止やレベル停止の義務が発生する前に浮上を開始することが可能になります。



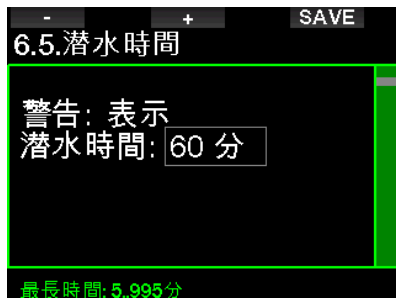
2.6.4 減圧停止が必要

最初の減圧停止義務が発生したときに警告するようG2を設定できます。この警告により、水面に直接浮上できなくなったことが通知されます。



2.6.5 最大潜水時間警告

値を5~995分の間で1分刻みで選択できます。



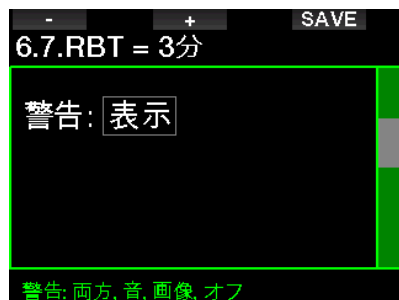
2.6.6 タンク残圧

タンク残圧がここで定義した値に達したときに警告を起動するようG2を設定できます。



2.6.7 RBT = 3分

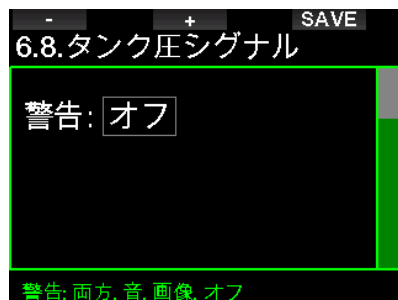
RBT (残り潜水時間)とは、現在の深度に滞在することができ、なおかつ十分なガス供給で安全に浮上してタンクリザーブで水面に到達できる時間を示します。RBT計算は、現在の呼吸速度に基づいて行われ、既に発生している減圧予定と今後発生する減圧予定および水温の勾配を考慮します。理想的な浮上速度での浮上を前提としています(「**浮上速度**」の章で定義)。RBTが3分になると、警告が発生します。



RBTが0分に達した場合、G2の計算によると、今すぐ浮上を開始し、最適浮上速度を保つと、タンクリザーブだけで水面に到達できませんが、それより浮上が遅いと、水面に到達する前にガスが枯渇するリスクが高くなります。

2.6.8 タンク圧シグナル

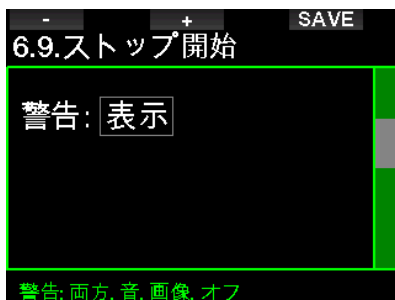
最近30秒間にワイヤレスタンク圧シグナルが受信されなかった場合に警告を起動するようG2を設定できます。警告メッセージは「**タンク圧未受信**」です。



さらに40秒経ってもG2がトランスミッターから信号を受信できなかった場合、さらに音シーケンスが鳴り、「**タンク圧不明**」というメッセージが表示され、その後はRBTが表示されなくなり、タンク残圧は「- - -」と表示されます。

2.6.9 レベルストップが必要

L0以外のマイクロバブル (MB) レベルでダイビングする場合、MB減圧不要時間が終了したときに警告するようにG2を設定できます。



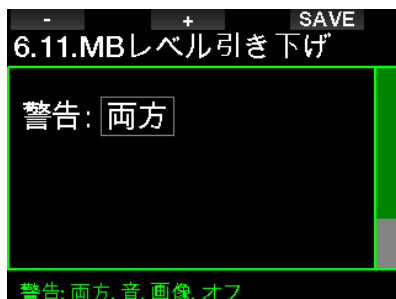
2.6.10 MB停止を無視

MBレベルをL0より高く設定してダイビングしており、MBレベルストップが必要なとき、最初のMBレベルストップ深度より上に浮上すると警告するようにG2を設定することができます。これにより、必要なストップを忘れることを防止することができます。



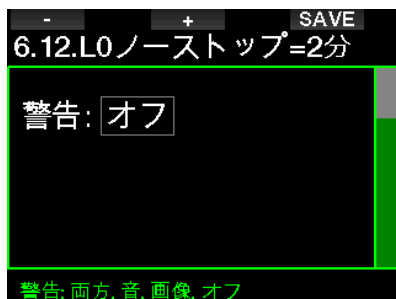
2.6.11 MBレベル引き下げ完了

MBレベルをL0より高く設定してダイビングしており、MBレベルストップが必要なとき、最初のMBレベルストップ深度より1.5m/5フィート以上に浮上すると、G2はMBレベルを次に可能なレベルに引き下げます。ディスプレイに、新しいアクティブなMBレベルが表示されます。このときに警告するようにG2を設定することができます。



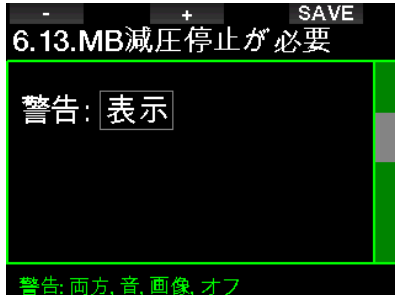
2.6.12 L0 no stop time = 2 min

MBレベルをL0より高く設定してダイビングするときは、基準のL0情報はディスプレイに直接表示されません(ただし、代替情報として参照できます)。MBレベルがL0より高いダイビングでは、基準のL0減圧不要時間が2分に達したときに警告するようにG2を設定できます。



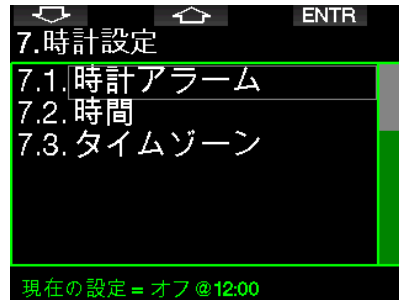
2.6.13 L0で減圧停止が必要

MBレベルをL0より高く設定してダイビングするとき、基準のL0情報はディスプレイに直接表示されません(ただし、代替情報として参照できます)。アクティブなMBレベルがL0より高いダイビングで、減圧停止が必要になる直前に警告を発するように、G2を設定できます。



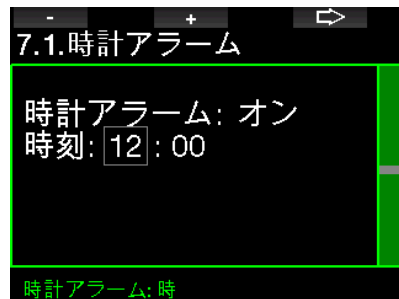
2.7 時計設定

この画面では、現在時刻、時刻の形式、日付、およびタイムゾーンを変更できます。アラームクロックもここで設定し、起動できます。



2.7.1 時計アラーム

このメニューでは、時計アラームを設定することができます。アラームの時刻は、時間メニューで設定した形式(12時間または24時間)で表示されます。アラームをONに設定すると時刻表示にベルのマークが表示されます。



2.7.2 時間

このメニューでは、時刻形式、時刻、日付を設定することができます。



2.7.3 タイムゾーン

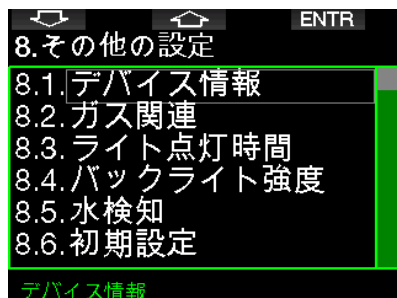
このメニューでは、別のタイムゾーンに旅行するとき時刻を簡単に変更することができます。実際の時刻自体を変更するのではなく、このメニューでは、現在表示されている時刻に足す(または引く)時間を定義すると、旅行先での現在時刻が計算されます。



UTC設定の範囲は、-13時間～+14時間の間で、15分刻みで設定することができます。

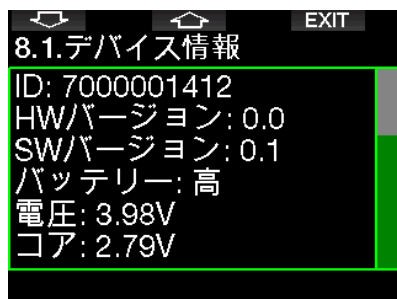
2.8 その他の設定

ここでは、G2のIDとソフトウェアバージョンを確認できます。また、バッテリー状態の確認、バックライトの設定、アップグレードの有効化、単位の初期設定へのリセットなども可能です。



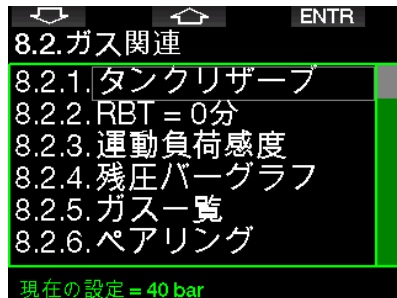
2.8.1 デバイス情報

このメニューには、デバイスのID番号 (ID)、ハードウェアバージョン (HW)、ソフトウェアバージョン (SW)、バッテリーレベルが表示されます。



2.8.2 ガス関連

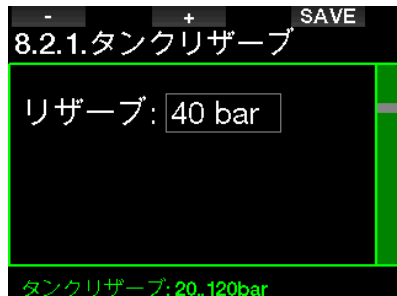
このメニューでは、さまざまなガス関連設定を編集できます。



2.8.3 タンクリザーブ

RBT (残り潜水時間)とは、現在の深度に滞在することができ、なおかつ十分なガス供給で安全に浮上してタンクリザーブで水面に到達できる時間を示します。RBT計算は、現在の呼吸速度に基づいて行われ、既に発生している減圧予定と今後発生する減圧予定および水温の勾配を考慮します。理想的な浮上速度での浮上を前提としています(「浮上速度」の章で定義)。

タンクリザーブの値が高いと、より厳格になりますが、潜水時間が制限されます。低くすると、潜水時間が長くなりますが、水面に到達する前にガス供給が枯渇するリスクが高まります。



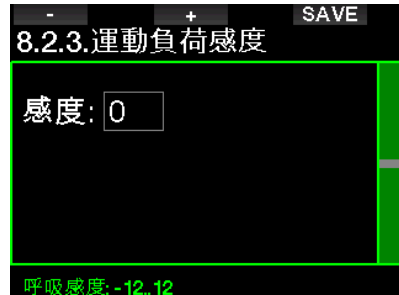
2.8.4 RBT警告またはアラーム

このメニューでは、RBT = 0分の状況を警告とするかアラームとするかを選択できます (PMGがインストールされている場合のみ表示されます)。



2.8.5 運動負荷感度

呼吸パターンの変化に対する運動負荷計算の感度は、25ステップで調整することができます。これは、アルゴリズムが減圧計算で呼吸パターンの変化をどのように考慮するのに影響を与えます。



値0は、ニュートラルな運動負荷感度です。値-12では、ダイブアルゴリズムにおいて呼吸が運動負荷に与える影響は最小です。

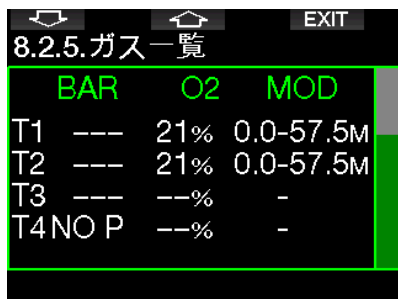
2.8.6 残圧バーグラフ

酸素のバーグラフ表示をタンク残圧のグラフィカル表示に置き換えることができます(クラシックおよびフルのみ)。この機能をONにすると、バーグラフのラベルが「O₂」から「TNK」に変わります。適切なスケールにするには、タンクがフルのときの圧力の値を定義する必要があります。タンク内のガスを消費していくと、区画が1つずつ消えます。



2.8.7 ガス一覧

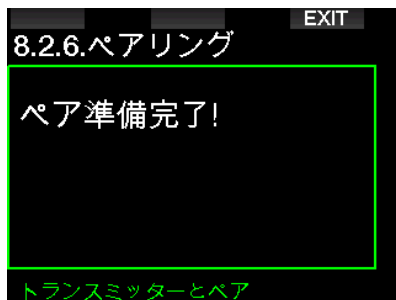
ガス一覧表には、ペアリングされたタンクの残圧とその内容の概要が表示されます。



注: 時刻表示からこの画面にショートカットするには、LOGボタンを長押しします。

2.8.8 ペアリング

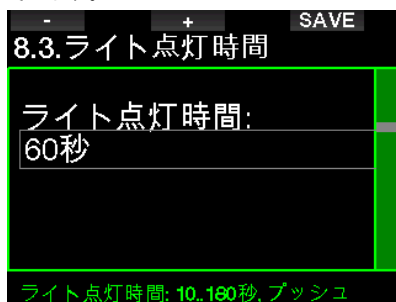
このメニューを選択すると、G2は近くにあるアクティブな(タンクバルブが開いている)タンクトランスミッターを探索します。このモードは、G2をトランスミッターのすぐ近くに置けない場合に便利です。



注: 正しいタンクとペアリングするために、このモードを使用する際は、近くにトランスミッターが1つだけあることを確認してください。

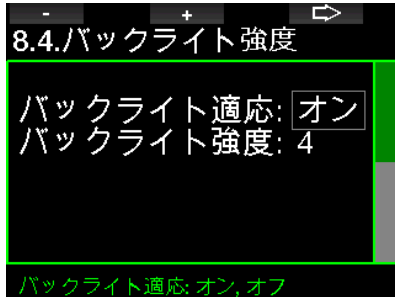
2.8.9 バックライト点灯時間

バックライトの電力消費は、充電と充電の間のバッテリー持ち時間に最も影響を与えます。このメニューで選択する時間により、画面が暗くなるまでバックライト点灯時間の長さが決まります。10秒~3分の範囲で選択するか、自動消灯機能(押す)を無効にできません。



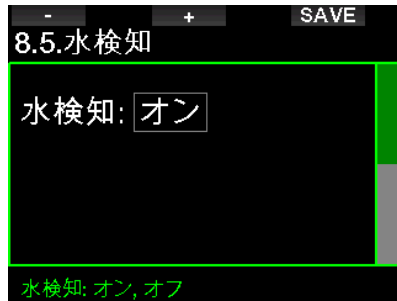
2.8.10 バックライト強度

バックライト適応を選択すると、環境光センサーによって暗さのレベルが検知され、インテリジェントライトアルゴリズムを設定してさまざまなコントラストレベルを実現できます。バックライト適応が有効な場合、強度の範囲は1～9で、適応機能を使用しない場合、範囲は1～15です。数値が大きいほど明るくなりますが、電力消費が高くなり、バッテリー持ち時間が短くなります。



2.8.11 水検知

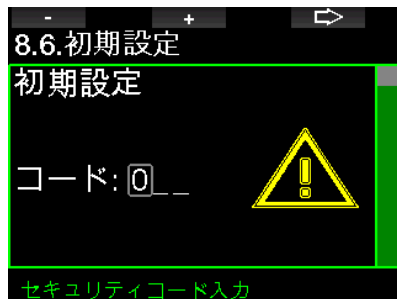
水検知によって、水の存在を検知するとG2が自動的に起動します。つまり、コンピューターをオンにしたかどうかを心配せず、いつでもダイビングを開始できます。ただし、湿度が高い環境にコンピューターを保管すると、いつまでも起動したままになり、バッテリーを浪費することになります。水検知をオフにしてこれを回避できますが、ダイビング開始前に必ずオンにするようにしてください。



☞ 注: 水検知をオフにしたまま、手でオンに戻すのを忘れてダイビングを開始しても、ダイビング開始後1分以内にコンピューターが起動します。潜水時間と減圧計算が不正確になりますが、深度測定値に影響はありません。

2.8.12 初期設定

このメニューでは、コンピューターのすべてのメニューのすべての設定を工場出荷時の元の設定に戻すことができます(緊急時の情報、トランスミッターのペアリング、ユーザー情報、Bluetoothペアリングを除く)。このとき、安全コード(313)を入力する必要があります。これによって、すべての設定を誤って元に戻してしまうことを防止できます。



2.8.13 機能アップグレード

このメニューには、G2の機能を拡張する機能が一覧表示されますが、初期状態では有効化されていません。いずれかの機能が必要な場合、SAVEボタンを押して選択・インストールできます。



インストールまたはアンインストールできる機能は、G2のメモリーフォルダ (\system\feature upgrade) に格納されています。

これらのファイルをG2に格納する方法については、「USBフラッシュディスクの操作」の章を参照してください。

2.8.14 ソフトウェアアップグレード

ソフトウェアアップグレードは、このメニューの一覧からインストールできます。ソフトウェアバージョンを選択し、SAVEボタンを押して先に進みます。



アップグレードできるソフトウェアバージョンは、G2のメモリーフォルダ (\system\sw update) に格納されています。

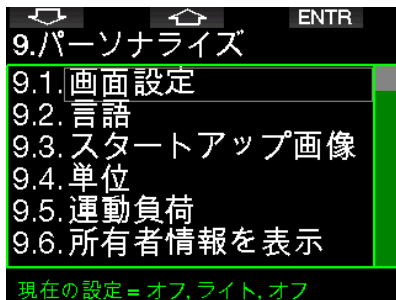
これらのファイルをG2に格納する方法については、「USBフラッシュディスクの操作」の章を参照してください。

2.8.15 フラッシュメモリーフォーマット

このプロセスについては、「フラッシュメモリーフォーマット」の章を参照してください。

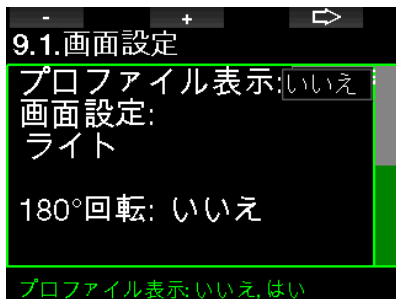
2.9 パーソナライズ

ここでは、カスタマイズ関連の設定を行います。さまざまな画面設定、色、言語、所有者、緊急時の情報、運動負荷、単位を選択できます。



2.9.1 画面設定

ライト、クラシック、フル、グラフィカル (Graphical) の設定から選択できます。また、表示を180度回転させて、コンピューターの一画面下にボタンを表示することもできます。



☞ 注: 「ライト」画面設定は、レベルストップや減圧停止を行うダイビングには対応しません。「ライト」画面設定を選択した場合、レベルストップまたは減圧停止が開始すると画面設定が「クラシック」に変わり、レベルストップまたは減圧停止義務(あるいはその両方)がすべて終わるまではそのままになります。

2.9.2 言語

このメニューでは、コンピューターに表示されるすべてのテキストの表示言語を設定することができます。一覧から言語を選択し、SAVEボタンを押して有効にします。



2.9.3 スタートアップ画像

起動後8秒間表示されるパーソナライズされた画像を選択することができます。このメニューでは、コンピューターのメモリーにある画像から好きなものを選択します。



これらの画像をG2に格納する方法については、「USBフラッシュディスクの操作」の章を参照してください。

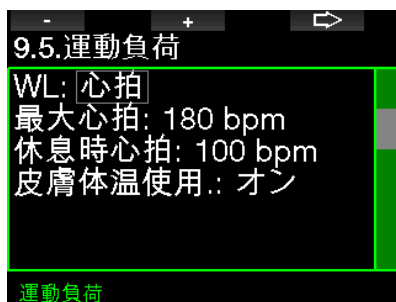
2.9.4 希望する単位を設定する

ここでは、圧力、温度、深度の単位の組み合わせを選択できます。この設定は、ダイブモード、ログブック、アラーム設定、高度設定などに適用されます。



2.9.5 運動負荷

あらゆる減圧計算の基礎となるのは、窒素を取り込むときには肺から血中へそして組織へと窒素が運搬され、窒素排出のときはその逆に窒素が運搬されるということです。このため、減圧計算で最も重要なパラメーターは、血液が体内を流れる速度です。激しい運動中は、心臓からの総血流量が休息時の4倍以上になります。このように増えた血流量は、均一に分散するのではなく、中枢神経系や脳などの組織に影響を受けませんが、筋肉などの組織には休息時の10倍以上の血液が流れます。



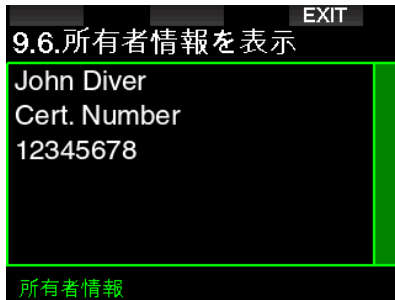
G2は高圧トランスミッターから受信した心拍や呼吸パターンの変化に基づいて運動負荷を推定し、ZH-L16 ADTモデルでの減圧計算がこれに応じて変化します。このメニューでは、運動負荷のベースを選択することができます。オフにした場合、G2は心拍やエアが統合されていないSCUBAPROの他のダイブコンピューターと同様に機能します。

SCUBAPROでは、すべてのダイブ、中でもテクニカルダイブで、運動負荷および心拍機能を使用することをお勧めします。ダイブが計画どおりに進めば、減圧スケジュールに影響はありません。ところが、運動負荷が高いと、減圧に必要な時間が長くなります。

さらに、適応アルゴリズムによって、水温または皮膚温度(特許取得済のSCUBAPRO心拍ベルトが必要)およびマイクロバブルの形成が計算に組み込まれます。

2.9.6 所有者情報を表示

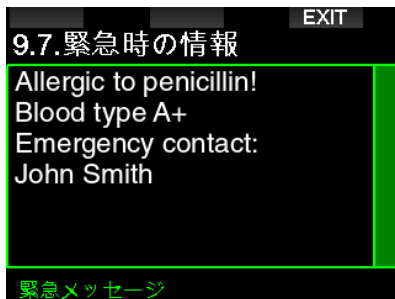
このメニューの所有者情報は、LogTRAKソフトウェア経由でのみ入力できます。



G2に所有者情報を保存する方法については、「**G2のインターフェースとLogTRAKの概要**」セクションを参照してください。

2.9.7 緊急時の情報

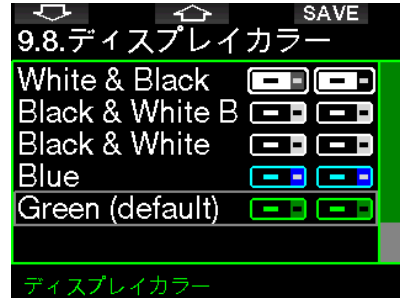
このメニューの緊急時の情報は、LogTRAKソフトウェア経由でのみ入力できます。



G2に緊急時の情報を保存する方法については、「**G2のインターフェースとLogTRAKの概要**」セクションを参照してください。

2.9.8 ディスプレイカラー

G2のディスプレイが消費する電力は、使用する色に依存しません。メニュー**9.8. (ディスプレイカラー)**を使用して、下図に示すようにさまざまな色の組み合わせを選択できます。



☞ 注：ダイビングする水の種類によっては、初期設定の色の組み合わせや白黒以外の色を使用すると画面が最も見やすくなる可能性があります。

2.10 画像

ここでG2のメモリーに保存した画像を確認できます。

2.11 ダイブプランナー

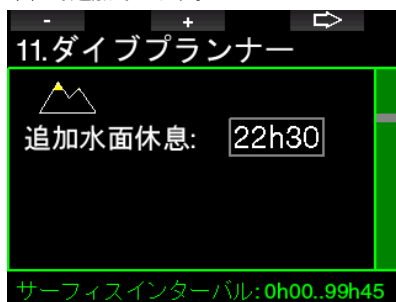
ダイブプランナーにより、体内残留窒素量に基づいて次回のダイブプランを作成できます。ダイブプランナーでは、この他に以下の情報も使用します。

1. 選択した酸素濃度。
2. 選択した水の種別。
3. 選択したマイクロバブルレベル。
4. 最後に行ったダイビングでの水温
5. 高度範囲。
6. 体内残留窒素の排出状況 (ダイブプランナー起動時)
7. 規定の浮上速度の遵守状況。

注: G2をゲージモードまたはアブネアモードにすると、ダイブプランナーは無効になります。

2.11.1 減圧不要プラン

ダイビング終了後、体内残留窒素排出時間中に次のダイビングを計画する場合、水面で休息するはずの時間を指定してプランナーを開始する必要があります。時間は15分単位で追加できます。

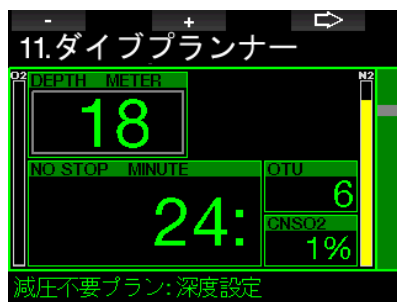


禁止高度が山のシンボルとともに表示されます。ダイバーは、この頂上に達してはいけません。G2を使用する高所でのダイビングについて詳しくは、「高地でのダイビング」の章を参照してください。

ダイビング禁止警告が表示されている場合、ダイブプランで推奨されるサーフィスインターバルとして、警告される時間が(15分単位に切り上げて)表示されます。



サーフィスインターバルが提示されているか、窒素排出が終了すると、プランナーは深度を3m/10フィート刻みで表示できます。その深度での減圧不要潜水時間が表示されます。



その深度での最長減圧不要時間の1%に達すると、画面にCNS%とOTUの値が表示されます。

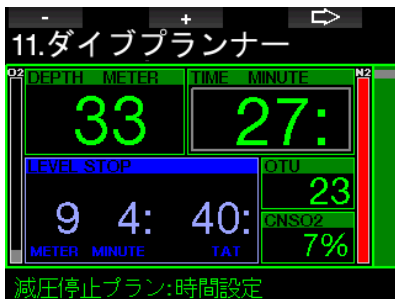
ダイブプランでの最浅深度は9m/30フィートです。プランナーは、最大酸素分圧に沿った深度のみを許可します。酸素比率と最大酸素分圧の設定は、メニュー1.(酸素設定)にあります。

▲ 注意

最大酸素分圧をOFFに設定すると、プランナーは最大120m/394フィートまでの深度を許可します。酸素分圧の高い空気/ナイトロックスでのダイビングは非常に危険であり、死亡にいたる危険があります。高い酸素分圧に曝露すると、CNSクロックの値が最大推奨値の100%を超えてしまう可能性があります。

MODが9m/30フィートより浅い場合、ダイブプランを作成できず、「最大酸素分圧が低すぎます」と表示されます。

2.11.2 減圧プラン



プランニングする深度で矢印ボタンを押すと、潜水時間を編集できます。開始ポイント（現時点では最小）は、減圧不要時間です。時間は1分単位で追加できます。最深の減圧停止またはMBレベルストップも合計浮上時間とともに表示されます。

2.12 ヘルプ

ここでは、よくある質問 (FAQ) とこのユーザーマニュアルの要約が格納されています。最新情報は www.scubapro.com をご覧ください。

2.13 Bluetooth

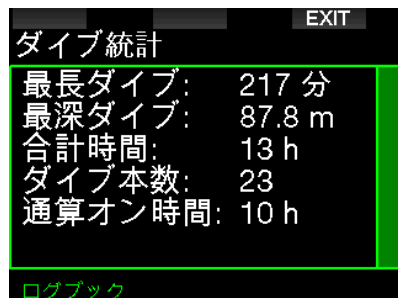
このメニューからBluetooth通信を起動できます。G2と他のBluetoothデバイスの間の接続を確立する方法については、「Bluetooth」の章を参照してください。

2.14 ログブック

ここでは、ダイブ統計という概要を含め、ログブックを読むことができます。ダイブ統計は常にログブックモードを選択した場合の開始ポイントとなります。



ダイブ統計には次のようなデータが含まれます。



各ダイブは、ダイブ番号と入水日付、時刻、最大深度、合計潜水時間とともに保存されます。

	ENTR
14.ログブック	
26	04.12.16 - 11:56 60.8 m - 63 分
27	05.11.16 - 15:41 54.4 m - 42 分
28	05.11.16 - 14:10 5.6 m - 5 分

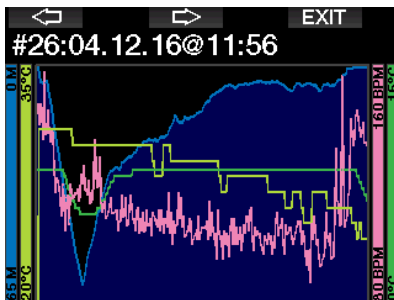
ダイブを選択すると、それに続いて表示される一連のページの始めに、次のデータが表示されます。

	EXIT
#26:04.12.16@11:56	
深度:	60.8 m
潜水時間:	63 分
O2%:	21 %
温度:	6°C
反復:	1

ログブック: スキューバ

☞ 注: ダイブをゲージモードで行った場合、このページにそのように表示されます。ゲージモードでは、スキューバモードより提供される情報が少ないため、ログブックの一部の行が空欄になります。次の例はスキューバモードでのダイブです。

2ページ目には、ダイブログがグラフィック表示されます。



3ページ目には、詳細情報が表示されます。

	EXIT
#26:04.12.16@11:56	
潜行時間:	11:56
浮上時間:	12:59
水面. 休息.:	0h00
CNSO2:	2 %
OTU:	18
平均深度:	16.4 m

ログブック: スキューバ

4ページ目

	EXIT
#26:04.12.16@11:56	
MB レベル:	L0
高度:	0m..850m
バッテリー:	高
ガス消費:	150 bar

ログブック: スキューバ

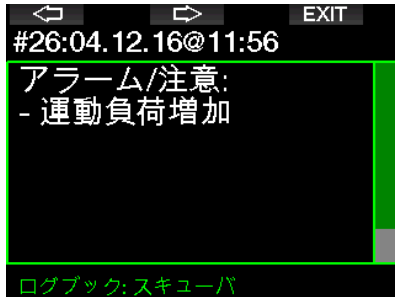
5ページ目

	EXIT
#26:04.12.16@11:56	
最小心拍:	80 bpm
平均心拍:	110 bpm
最大心拍:	158 bpm
最低皮膚温.:	24°C
平均皮膚温.:	29°C
最大皮膚温.:	31°C

ログブック: スキューバ

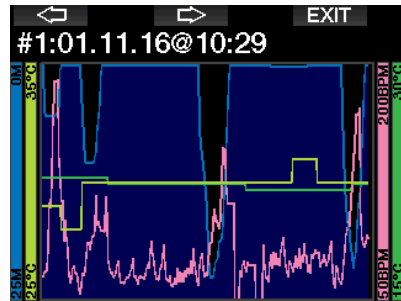
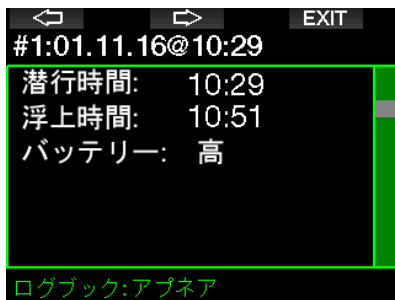
☞ 注: 複数のガスでダイビングを行うと、5ページ目以降にページが追加されます。

6ページ目には、もしあればダイブの警告やアラームが要約されます。



2.14.1 アプネアログ

G2のアプネアダイブログでは、個々の入水が1回のダイブセッションにグループ化されます。最初の3ページにはセッションのデータが表示されます。



その後のページには、そのセッションの個々の入水の詳細情報が表示されます(ディスプレイの一番下に、反復 #1、#2のように番号が表示されます)。



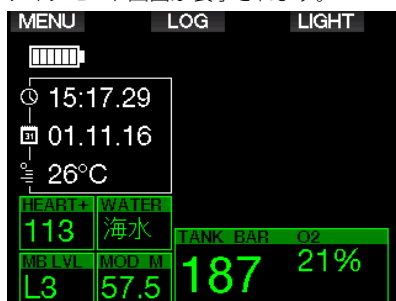
3. G2を使ったダイビング

G2は、機能が豊富で汎用性の高いダイブコンピューターであり、簡単なレクリエーションダイブから複雑な混合ガスによるダイブまで減圧計算を実行できます。また、浮上速度の計算と警告も提供します。大容量のメモリーに画像を保存でき、ログブックには4秒のサンプリング速度でダイブプロフィールを1000時間分以上格納できます。ダイブ中は、深度、潜水時間、減圧状態、水温などの情報が表示され、ダイブ後の陸上では、体内残留窒素排出時間、NO FLY時間、サーフィスイントーバル、禁止される高度クラスが表示されます。

3.1 陸上でのダイブモード

3.1.1 レクリエーション(初期設定)

しばらくG2でダイビングしていない(体内の窒素が排出されている)場合、次のようなダイブモード画面が表示されます。



ただし、ダイブ後のスキューバモードでは、次のようなディスプレイが表示されます。

現在の高度クラスと禁止される高度が、右上隅に山のシンボルで表示されます。画面中央では、最後のダイブからのインターバルがカウントアップされ、残留窒素窒素排出時間がカウントダウンされます。



より高度なダイブモードを起動すると、次のようなディスプレイが表示されます(最近のダイブがないPMGモードを表示)。

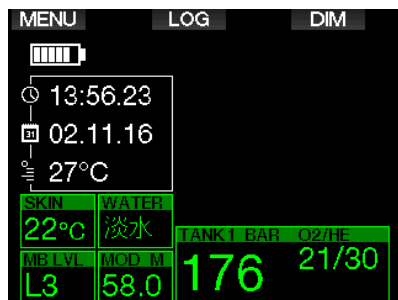
3.1.2 PMG

PMG (Predictive Multigas) モードでは、次のダイブに対して有効になっている混合ガスの数が、ガス残圧および比率ウィンドウの下に表示されます。下の画面では、2種類の混合ガスが有効になっています (2G)。



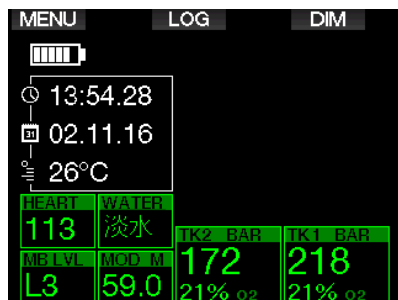
3.1.3 トライミックス

トライミックスモードでは、タンク残圧および比率ウィンドウにガス比率が酸素/ヘリウム形式で表示されます。



3.1.4 サイドマウント

サイドマウントモードでは、タンク残圧および比率ウィンドウが2本のタンク用に分かれています(左側と右側)。



3.1.5 CCR

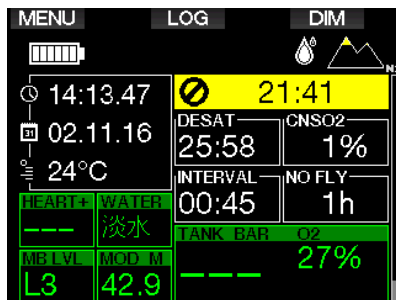
CCRモードでの表示はサイドマウントモードに似ていますが、タンク残圧および比率ウィンドウにはデリユエントおよび酸素の比率が表示されます。



3.1.6 サーフィスインターバル、ダイビング禁止、CNS%カウンター

ダイビング後、G2には最後のダイビング終了後のサーフィスインターバルが表示されます。サーフィスインターバルカウンターは、体内残留窒素の排出が完了するまでカウントを続けます。排出完了後、このウィンドウは消えます。

ダイビング禁止シンボルとカウントダウンタイマーが表示され、マイクロバブルや酸素の過剰な蓄積 (CNS O₂% > 40%) が原因でダイビングをしてはいけない時間を示します。



最後のダイブで蓄積された酸素のCNS%は、体内残留窒素排出 (DESAT) 時間の横でカウントダウンされ、ゼロになると消えます。

3.2 ダイビング中のボタンの機能

次の表に、ダイビング中のボタンの機能を示します。

注：G2には、スキューバ、アプネア、ゲージという3つのダイブモードを設定できます。各モードの操作には違いがあるため、ボタンに割り振られた機能も異なります。

左ボタン		中央ボタン		右ボタン		
押す	長押し	押す	長押し	押す	長押し	
ライト	ブックマークを設定	-	代替ウィンドウに順にアクセス	代替ディスプレイに順にアクセス	バックライト	コンパス
			最大深度	ダイブプロファイル		
			PDIS	コンパートメント飽和		
			水温	画像		
			心拍			
			皮膚温度			
			バッテリーレベル			
			アクティブなMBレベル：L0以外の場合			
			MB L0情報			
			時刻			
		CNS%				
クラッシュ	ブックマークをセットし、ストップウォッチをリセット	-	代替ウィンドウに順にアクセス	代替ディスプレイに順にアクセス	バックライト	コンパス
	(ガス切り替えを確定)	(手動でのガス切り替え)	最大深度	ガス一覧		
			O ₂ %	減圧サマリー		
			PDIS	ダイブプロファイル		
			心拍	コンパートメント飽和		
			皮膚温度	画像		
			バッテリーレベル			
			ストップウォッチ			
			アクティブなMBレベル：L0以外の場合			
			MB L0情報			
			時刻			
			CNS%			
			平均深度			
			ppO ₂			
		OTU				

フル	ブックマークをセットし、ストップウォッチをリセット	-	代替ウィンドウに順にアクセス	代替ディスプレイに順にアクセス	バックライト	コンパス
	(ガス切り替えを確認)	(手動でのガス切り替え)	O ₂ %	ダイブプロファイル		
			PDIS	コンパートメント飽和		
			平均深度	画像		
			皮膚温度			
			バッテリーレベル			
			CNS%			
			PPO ₂			
		OTU				

グラフィカル	ブックマークをセットし、ストップウォッチをリセット	-	代替ウィンドウに順にアクセス	代替ディスプレイに順にアクセス	バックライト	コンパス
	(ガス切り替えを確認)	(手動でのガス切り替え)	最大深度	ガス一覧		
			O ₂ %	減圧サマリー		
			PDIS	ダイブプロファイル		
			心拍	コンパートメント飽和		
			皮膚温度	画像		
			バッテリーレベル			
			ストップウォッチ			
			アクティブなMBレベル:L0以外の場合			
			MB L0情報			
			時刻			
			CNS%			
		平均深度				
		ppO ₂				
		OTU				

コンパス	ブックマークをセットし、ストップウォッチをリセット	-	方位を設定	設定した方位を消去	バックライト	手動で最初のディスプレイに戻る
------	---------------------------	---	-------	-----------	--------	-----------------

ゲージ	ブックマークをセットし、ストップウォッチをリセット	-	ブックマークをセットし、平均深度をリセット	代替ディスプレイに順にアクセス	バックライト	コンパス
				ガス一覧		
				ダイブプロファイル		
				画像		

アブネア	ダイブセッションを手動で終了(水面で)	-	-	代替ウィンドウに順にアクセス	バックライト	-
				心拍		
				皮膚温度		

3.3 高地でのダイビング

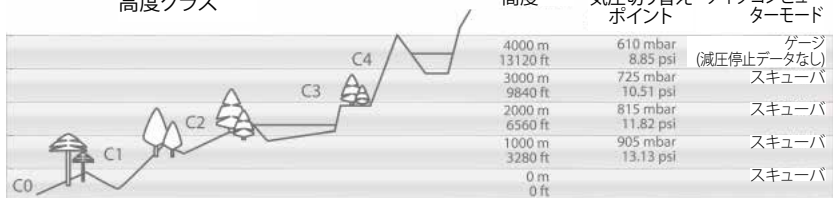
3.3.1 ダイブ後の高度クラス、高度警告

高地へ移動するのは、ダイビングで浮上を始める状況と似ています。人体は低い窒素分圧に曝露され、窒素の排出が始まります。ダイビング後は体内残留窒素量が多いため、通常は問題のない高度に上がるだけでも、減圧症になる危険があります。そのため、G2は大気圧を定期的にモニターし、それを使用して体内残留窒素量と窒素排出を評価します。G2が現在の体内残留窒素量に対応しない大気圧の低下を検出すると、潜在的に危険な状況を知らせる警告が発生します。

G2は体内残留窒素をカウントダウンし、窒素排出が完了するまでサーフィスモード画面に表示します。



高度クラス



許可される高度は、時刻表示の右上隅に山のシンボルで示されます。禁止高度とは、現在の体内残留窒素レベルではダイビングに適合しないとG2が算出した高度であり、山のシンボル内を塗りつぶす色の区画で表示されます。詳しくは、「高度と減圧アルゴリズム」の章を参照してください。

現在の高度は、メニュー5.(高度計)でチェックできます。

体内残留窒素は、ディスプレイ右端のバーに表示され、「N₂」というテキストがラベルとして付いています。

注：飛行機搭乗待機、ダイビング禁止、および高度制限も、もし発生していれば時刻表示にシンボルが表示されます。

3.3.2 高度と減圧アルゴリズム

大気圧は、高度と気象条件の関数です。このことはダイビングにおいて重要な側面となります。これは、大気圧が体内への窒素の取り込みと排出に影響を与えるためです。特定の高度を超えた場合、大気圧の変化の影響を考慮するために、減圧アルゴリズムを変更する必要があります。

G2では、下図のように高度クラスを5つのクラスに分類しています。

気候条件の影響を受けて大気圧の切り替えポイントは違うレベルになるため、高度クラスは、おおよその高度に基づいて定義されます。

⚠ 注意

高度クラス4では、G2はゲージモードでのみ機能します(コンピューターモードから自動的に切り替わります)。

☞ 注: 高度メーターを起動して高度を確認できます。確認方法は、「高度計」の章を参照してください。

☞ 注: G2は高度を自動的に処理します。大気圧を60秒間隔でモニターし、大幅な低下を検知した場合には、新しい高度範囲と(該当する場合は)禁止高度を示します。また、体内残留窒素排出時間を示します。この場合、新しい大気圧に適応するための時間です。この適応時間内にダイビングを開始すると、体内にまだ残留窒素があるため、「反復潜水」と見なされます。

3.3.3 禁止高度

ダイビング後に飛行機搭乗を含め、高地に移動すると、人体は気圧の低下に曝露されます。飛行機搭乗待機時間と同様に、ダイビング後に安全に移動できる高度クラスと安全に移動できない高度クラスが表示されます。ダイビング後に車で山を越えて帰宅する必要がある場合は、この情報が非常に重要です。



禁止高度クラスは、山のアイコン内を黄色(初期設定の色)で塗りつぶして表示されます。これと合わせて、現在の高度を示す灰色(初期設定の色)の区画が表示されます。上の例では、現在ダイバーがいるのは高度クラス1で、高度クラス4への移動は禁止されています。

G2には高度警告機能があります。現在の体内残留窒素レベルで移動に適さないとG2が判断した高度へ移動すると、高度警告によって注意します。



3.3.4 高所の湖での減圧ダイビング

高所でも適切に減圧を行うために、高度クラス1、2、3では減圧停止が2m/7フィートから始まります。

大気圧が610mbar(高度4000m/13300フィート以上)より下がると、G2は減圧計算をやめ、自動的にゲージモードになります。さらに、この高度ではダイブプランナーも使用できなくなります。

3.4 ナイトロックスでのダイビング

ナイトロックスとは、酸素と窒素を混合した呼吸用ガスであり、酸素の比率を21%(エア)より高くしています。ナイトロックスは、窒素含有量がエアより少ないため、同じ深度でもエアより体内残留窒素量が少なくなります。

ただし、ナイトロックスの酸素濃度を高めると、同じ深度で混合ガスにおける酸素分圧が増えます。大気分圧より高いと、酸素は人体に有害になります。これは次の2つに分類できます。

1. 1.4bar以上の酸素分圧による急性影響。

高い酸素分圧への曝露時間の長さとは関係なく、急性の影響は実際の分圧レベルに応じて異なります。一般に、ダイブ中のアクティブな段階では1.4barまでの分圧が許容され、減圧中の最大酸素分圧は最大1.6barです。

2. (反復潜水や長時間のダイビングにより)0.5bar以上の酸素分圧に長時間曝露されたことによる影響。中枢神経系に影響し、肺などの重要な器官に障害を与える可能性があります。中枢神経系へのより深刻な影響と、それより危険性が低い長期的な肺毒性に分けることができます。

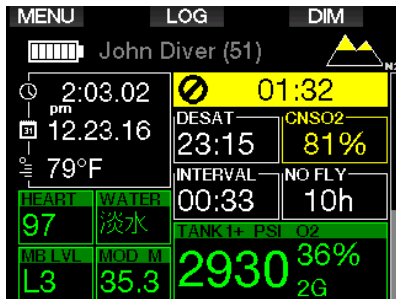
G2は、高い酸素分圧による急性の影響と長時間の曝露による影響を、次のように処理します。

- **急性の影響:**ユーザーの定義した最大酸素分圧に対してMODアラームが設定されます。酸素濃度を入力すると、定義された最大酸素分圧に対応するMODが表示されます。最大酸素分圧の初期設定は1.4barです。この値は、1.0~1.6barの間で自由に調整可能です。あるいは、「off」にすることもできます。この設定の変更方法は、「最大酸素分圧」の章を参照してください。

- **長時間の曝露による影響:**G2は、CNS O₂ クロックを用いてこの影響を「トラッキング」します。CNS O₂のレベルが100%以上になると、長時間の曝露による影響というリスクがあるため、G2はこのレベルになるとアラームを発します。また、CNS O₂レベルが75%になると警告を発します(「**CNS O₂ = 75%**」の章を参照してください)。CNS O₂ クロックは、ユーザーが設定した最大酸素分圧の値には影響されません。

CNS O₂ = 75%警告および100%アラームはダイブ中に発生する可能性があります(「**CNS O₂ = 75%**」および「**CNS O₂ = 100%**」

」の章を参照)、ダイブ後に残ったCNS O₂の値は時刻表示に表示されます。

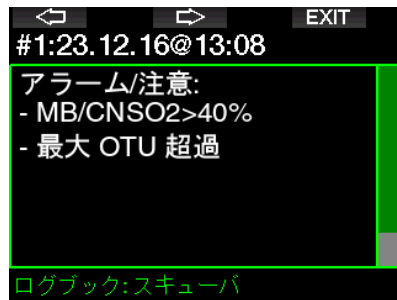


CNS O₂クロックは、酸素分圧が0.5barを上回ると上昇し、酸素分圧が0.5barを下回ると下降します。したがって、水面でエアを呼吸している間は、CNS O₂クロックは常に下降します。ダイビング中に、各種混合ガスで0.5barに到達する深度は次のとおりです。

エア:	13m/43フィート
32%:	6m/20フィート
36%:	4m/13フィート

☞ 注:酸素濃度が80%以上の場合、最大酸素分圧は1.6barに固定され、変更はできません。

・ **長時間の曝露と反復潜水による影響:**高濃度の酸素分圧による反復潜水または非常に長時間の曝露では(テクニカルダイビングやリプリーザーダイビング)、長期的な肺毒性症状が発生する危険性があり、これはOTUでトラッキングすることができます。現在のOTUインフォメーションをチェックする方法またはカウンターをリセットする方法については、「**OTU設定**」の章を参照してください。ダイブで許可されるOTUを超えると、下図のようにログブックにアラーム/注意として記録されます。



3.4.1 テクニカルダイビング

テクニカルダイビングにG2を使用する場合は、認定された指導団体が指導を受け、適切な認定を受ける必要があります。減圧ダイビング、高濃度の酸素でのダイビング、マルチガスダイビング、混合ガスダイビングは、いずれも高いスキルを必要とし、特定のトレーニングや教育でのみ得られるノウハウを要求します。ダイブコンピューターは電子機器であり、ダイバーに代わって決定を下すことはできません。また、ダイビング中にすべてのパラメーターを考慮に入れることはできません。テクニカルダイビングでは、ダイブコンピューターはダイブ中にまず従うべき計器ではありません。ダイブ開始前にプランを作成し、ダイブ中はこれに従う必要があります。プランとコンピューターが異なるスケジュールを示す場合、より厳格な方に従ってください。

▲ 注意

G2トライミックスモデルとトライミックスダイビングは、いずれも、健康で体調万全の上級ダイバー向けです。専門医による健康診断を定期的な受け、ダイビングへの身体的適性を確認する必要があります。これはテクニカルダイビングではさらに重要です。複雑なダイブを行うとき、非常に重要な特性となるのは忍耐力の維持です。実際のダイビング経験に基づいて個人的な深度制限と減圧を定め、経験を積むにつれ少しずつ値を増やしていく必要があります。G2はコマーシャルダイビングには適していません。水面からの送気、スーツの加熱、チャンバーやベルでの減圧、長時間に及ぶ運動負荷の高いダイブなどの特殊な手順で行うダイビングでは、アルゴリズムが正しく計算されなくなったり、G2ダイブコンピューターの正常な動作を妨げる可能性があります。バックアップ計器を携帯せずにダイビングを行わないでください。ダイビング中は常に、深度、時間、タンク残圧を計測する計器とダイブテーブルを携帯することが重要です。あらかじめダイブの計画を立て、他の商用プランナープログラムまたはテーブルでプランをクロスチェックしてください。ダイブプランには、緊急時や遅延時の対応に十分な量のリザーブガスが含まれている必要があります。常にダイブ用のベイルアウ

トテーブルを作成してください。テクニカルダイビングは誰でもできるものではありません。特にヘリウム混合ガスを使用する減圧ダイビングでは、事故の潜在的なリスクが常に高く、発生すると永久的な傷害や死亡につながる危険があります。個人の健康状態、環境条件、人的エラーなどの度合いにより、リスクはさらに高くなります。リスクをとりたくないのであれば、ダイビングをしなないことをおすすめします。

3.4.2 複数の混合ガスによるダイビング

G2はZH-L16 ADT MB PMGアルゴリズムを採用しています。PMGとは、「Predictive Multigas」を略したものです。複数の混合ガスをプログラムする際に、指定した深度で酸素濃度の高いガスへの切り替えが行われるという仮定に基づき、G2はプログラムされたすべての混合ガスを総合した減圧スケジュールに従って警告を発生します。

つまり、ダイビング中のいかなる時でも、持参したすべての予備混合ガスが考慮されます。同時に、現在呼吸している混合ガスのみを使用してダイビングを終える場合の減圧スケジュールも確認できるため、想定外の状況にも備えることができます。G2でこのモードを有効化する方法は、「PMG」の章を参照してください。

▲ 注意

非常に重要!

!複数の混合ガスによるダイビングは、1種類の混合ガスによるダイビングより遥かにリスクが高く、ダイバーが何らかのミスをするると重症や死亡にいたる危険があります。

!複数の混合ガスによるダイビング中は、使用を意図しているタンクから呼吸していることを必ず確認してください。不適切な深度で酸素濃度が高いタンクから呼吸すると、死亡にいたる危険があります。

!すべてのレギュレーターとタンクに識別用の印をつけ、いかなる状況でも混同しないように注意してください。

!毎回のダイビング前とタンク交換後は、それぞれのタンクのガス比率が正しい値に設定されていることを確認してください。

!複数のガスによるダイビングを行う際は、あらかじめ適切なトレーニングと認定を受けてください。

G2Hでは、1回のダイビングで最大8種類の混合ガスを使用できます。

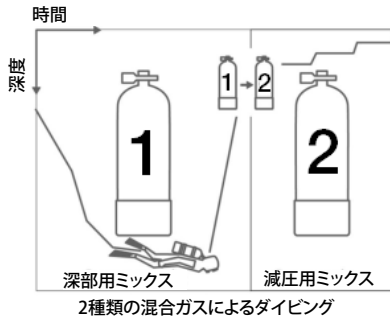
- ・ 酸素濃度が80%以上の場合、最大酸素分圧は1.6barに固定され、変更はできません。
- ・ タンク2～8のMODは、これらのガスの交換深度です。G2は、計算、警告、推奨交換ポイントにこの値を使用します。
- ・ 複数の混合ガスを使ったダイビングでは、ナイトロックスリセット時間機能(「**ナイトロックスリセット時間**」の章を参照)を使用すると、ガス1は21%に、ガス2～8はOFFに設定されます。

☞ 注: 新しい混合ガスの入ったタンクから呼吸を始めてから、交換を確定してください。

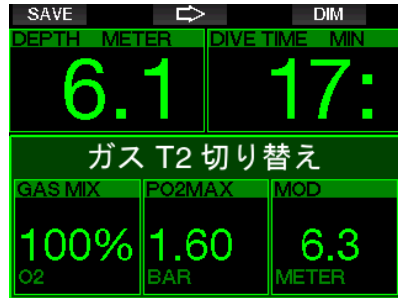
⚠ 注意

意図したガスに交換することを確認してください。これを怠ると、重症または死亡にいたる危険があります。

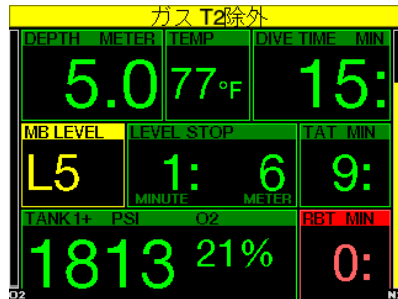
以下の章では、2種類の混合ガスを有効化した状態でのガス交換について説明します。3種類以上を有効化していても同様の機能になります。



ダイビング中に混合ガスを交換する



浮上中に、現在使用しているもの以外のガスのMODに対応する深度に達すると、G2はタンクの交換を提案します。音シーケンスが鳴り、「**ガスT2切り替え**」というメッセージが画面に表示されます。このメッセージには30秒以内に交換する必要があります。それを過ぎると、G2はガス2が使用されないと判断し(「**ガスT2除外**」)というテキストを表示)、それに従って減圧スケジュールを調整します。

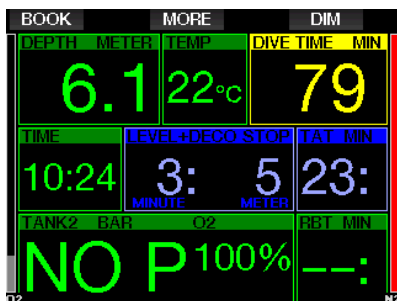


ガス交換を確定するには、SAVEボタンを押します。交換を確定すると、「**ガスT2切り替え完了**」というメッセージが画面に4秒間表示されます。



酸素濃度の低いガスに戻る

状況によっては、現在呼吸しているガスより酸素濃度の低いガスに戻す必要が生じます。たとえば、酸素濃度の高いガス (T2) のMODより深い場所にもう一度潜降した場合や、減圧中にT2がガス切れになった場合などです。この段階でBOOKボタンを長押しすると、ガス交換を手動で開始できます。



G2に「ガスT1切り替え」というメッセージが表示されます。この段階でSAVEボタンを押すと、ガス交換が確定します。矢印ボタンを押すと、別のガスを選択できます。



G2に「ガスT1切り替え 完了」というテキストが4秒間表示され、それに従って減圧スケジュールが調整されます。

予定深度でガス交換を行わなかった

G2から提案された30秒以内にガス交換を確定しないと、減圧計算からこのガスが除外され、これを使用せずにダイビングを終了するという前提で減圧スケジュールが調整されます。

ガス交換が遅れた

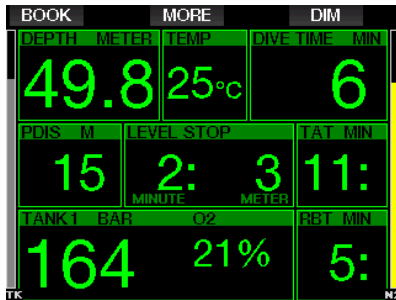
いつでもガスを手動で選択して、予定していた混合ガスに交換することができます。ガス交換を開始するには、BOOKボタンを長押しします。G2に「ガスT2切り替え」というメッセージが表示されます。これにより、安全なガスに交換することを確認できます。次に、SAVEボタンを押して、ガス交換を確定します。G2に「ガスT2切り替え 完了」というテキストが表示され、それに従って減圧スケジュールが調整されます。

ガス交換後にMODより深い場所に潜降する場合

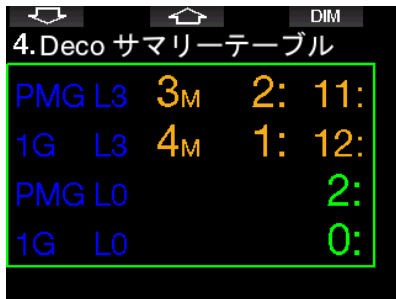
ガス2に交換した後で、誤ってその混合ガスのMODより深く潜降してしまった場合、即時にMODアラームが起動します。この場合、ガス1に戻すか、ガス2のMODより浅い深度に浮上してください。

浮上中に予定されている減圧停止とガス交換

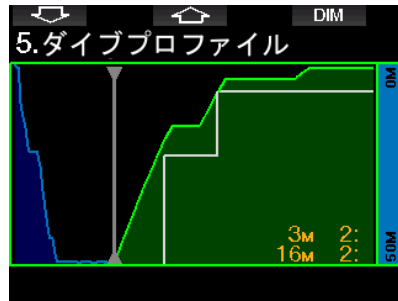
メインのダイブディスプレイには、最も深い減圧停止の深度と時間のみがTATとともに表示されます。



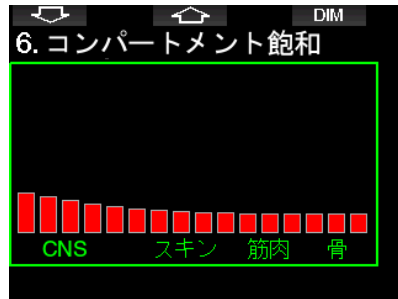
MOREボタンを長押しすると、ガス一覧表が表示されます。MOREボタンを押すと、予定されている減圧停止が、使用されたすべての有効なガス (PMG) とともに、現在のガス (1G) のみが使用されるという仮定に基づいて表示されます。また、現在選択されているMBレベルとMBレベル0のスケジュールが表示されます。



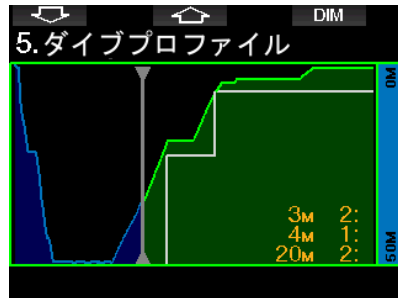
下向き矢印ボタンを押すと、プロフィール画面が表示され (青は既にダイビングした部分、灰色の線は現在時刻、緑色は予定されている浮上プロフィール) ます。MODに基づく必要なガス交換深度 (白い線) も表示されます。



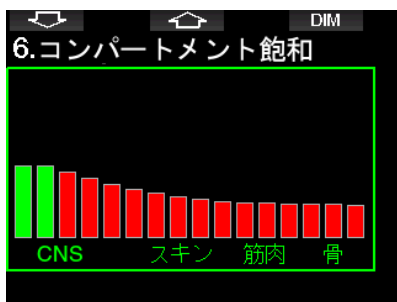
上向き矢印ボタンを押すと、現在のコンパートメント飽和が表示されます。



右側に表示されている情報が示すように、前述のダイブが浮上フェーズに移行しても、減圧停止時間は増え続けています。



「速い」コンパートメントではガスの排出が始まり、その効果は下図の飽和バーグラフに示すとおりです。



ガスを排出しているコンパートメントの色は赤から緑に変わります。

3.4.3 トライミックスモードでのダイビング

▲ 注意

非常に重要!

ダイブ中に圧縮空気またはEANナイトロックスを呼吸すると、ダイバーはある程度のリスクを受け入れることになります。ダイブ中にトライミックスガスやその他の混合ガスを呼吸すると、リスクレベルが上がります。

ISCUBAPROでは、トライミックスアルゴリズムのリスクレベルを許容される最小レベルに抑えるために、トライミックスダイビングに関連するすべてのデータと最新の高圧研究の成果を取り入れています。それにもかかわらず、ナイトロックス、トライミックス、混合ガス、圧縮空気を呼吸するダイビングでSCUBAPROのトライミックスアルゴリズムを使用したとしても、減圧症、酸素中毒、その他のリスクによる重症や死亡の危険が軽減・排除されることを保証することはできません。

ISCUBAPROのダイブコンピューターに搭載されたトライミックスアルゴリズムを使用するトライミックスダイバーは、リスクレベルについて認識し、個人的なリスクを理解したうえで、そのようなリスクの完全な法的責任を負うことに同意する必要があります。重症や死亡を含め、リスクを受け入れることに同意できないダイバーは、トライミックスモードでダイビングすべきではありません。

!ただ1つの情報源にご自分の命を委ねるのは危険です。どのコンピューターでも故障の可能性があるため、それだけに頼ることは避け、常に故障時の対処方法を計画しておくようにします。2つ目のダイブコンピューターを持ち、バックアップテーブルと深度計や時間測定器を携帯してください。リスクの高いダイブを行う場合は、認定された指導団体に適切な研修を受け、このようなダイビングに必要なテクニカルスキルと経験を習得してください。コンピューター技術は、知識と研修に替わるものではありません。

▲ 注意

G2を使用してトライミックスダイビングを行う前に、減圧不要のレクリエーションダイビングで練習して、ダイブコンピューターのインターフェースと機能に慣れておく必要があります。

最小および最大行動可能深度

絶対最浅深度 (AMD) および最大行動可能深度 (MOD) は、混合ガス内の酸素比率から計算されます。ユーザーの提供した ppO_2 を酸素比率で割り、その結果が圧力となり、深度に変換されます。最大MODはすべてのガスに対して有効ですが、最小AMDは空気より酸素比率が低い混合ガスにのみ適用されます。

☞ 注: 空気 (21/0) では、トライミックス (21/10) などとMODが異なります。この理由は、G2が空気内の酸素により高精度な値 (20.7%) を用いるためです。

▲ 注意

高地で低酸素ミックスを使用してダイビングを行うためには、適切な環境順化が必要になります。低いppO₂レベルに適應するのは時間のかかるプロセスであり、赤血球を増産する必要があります。適應時間には個人差があり、直接算出することはできません。別の要因として、高所に到着したときに圧力低下によって窒素が排出されます（「高度計」および「高地でのダイビング」の章を参照してください）。

ガスの選択

テクニカルダイビング、中でもトライミックス混合ガスでは、減圧の効率が非常に重要です。ヘリウム比率が高く、酸素比率が低い混合ガスは、減圧に適していません。たとえば、ボトムガスとして空気またはナイトロックスを使用する場合、ほとんどの場合は2種類の減圧ガスで十分ですが、トライミックスを使用する場合は、より多くの減圧ガスが最適なガス排出に必要になります。したがって、「複数の混合ガスによるダイビング」の説明に従ってトライミックスに対してPMGオプションを有効化する必要があります。

タンク1は常に水面からダイビングを開始するためのガスです。複数のタンクをセットしている場合は、ダイブ中に手動でガス交換するか、G2から提案されたときにガス交換することができます。

タンクT1の最大酸素設定は18%です。これは、ダイブは必ずガス1で始めなければならないという制約によるものです。体に酸素を十分に供給するために、ダイビング開始時に使用するガスにはタンク1のように十分な酸素が含まれている必要があります（トラベルミックスまたはいずれかの減圧ガスを使用できます）。したがって、絶対最浅深度に関連する最初のアラームは1.2m/3.9フィートより浅い深度で発生します。

▲ 注意

水面または浅い深度で、酸素比率21%未満のガスを呼吸しながら重労働を行うと、気絶により溺れる危険があります。

タンク1の最大酸素設定は8%です。

▲ 注意

酸素比率を低く設定すると、MOD値が大きくなる可能性があります。ダイブコンピューターは、表示されたMODに対するダイバーのスキル、経験値、状況を評価できません。自分が取得した認定で許可される深度を守ってダイビングしてください。

G2は、最大許容ヘリウム比率を、100%から酸素比率を引いて計算します。

▲ 注意

ヘリウムは混合ガスの催眠効果を抑えますが、完全に解消するわけではありません。深度が非常に深いと、ヘリウムも「Helium tremors」またはHPNS（高圧神経症候群）を発症させる可能性があります。

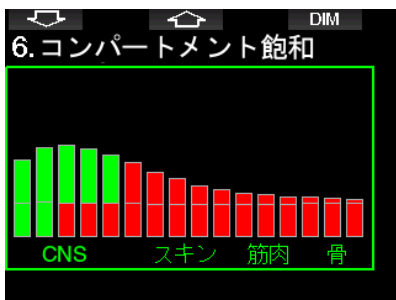
ガス一覧表は、複数の混合ガスを取り扱う場合に実用的です。プレダイブチェックでもダイブ中でも呼び出すことができます。

	BAR O ₂ /HE	MOD
T1	245 18/40	0.0-80.7M
T2	205 12/60	5.3-109M
T3	215 50/15	0.0-18.6M
T4	245 100%	0.0- 6.3M

☞ 注: Smartトランスミッターは、アクティブに使用されているタンクからのみ、タンク圧シグナルを頻繁に発信します。5分間タンクを使用しないと、トランスミッターが省電力モードになり、ガス一覧表で圧力値が更新されるまで多少時間がかかるようになります。

トライミックスでのコンパートメント飽和

トライミックスモードで表示されるコンパートメント飽和では、ヘリウムと窒素の飽和が両方組み合わされ、細い線で区切られています。コンパートメントのガス排出と取り込みは、色の変化と同じ方法で示されます。



N₂とHeのPDIS

「PDIS (プロファイル依存中間停止)」の章で説明しているPDIS (プロファイル依存中間停止) は、窒素とヘリウムの両方を対象とします。PDISを有効化すると、最適なガス排出深度が表示されます。PDISトップは必須ではありませんが、マイクロバブルの形成を抑える役割を期待できます。

3.4.4 CCRモードでのダイビング

CCR (クローズドサーキットリブリーザー) システムは、オープンサーキットのスキューバシステムより歴史が長いと考えられます。手動でコントロールする場合の基本的な動作原則は、信頼性の高いレギュレーターシステムを必要としないためです。

また、CCRシステムはオープンループシステムと比べてガスの使用効率が高くなります。これは、呼吸ループに酸素が必要な量だけ追加されるためです。人体から生成される二酸化炭素は、スクラバーで計算されます。副次的な効果として、CCRシステムはほとんど気泡を発生しないため、水中で写真撮影や魚の観察を行う場合に有益です。

CCRシステムでは、呼吸ガスのppO₂ (酸素分圧) が一定に保たれます。CCRシステム自体がこれを制御します。オープンループシステムと比べ、ppO₂が一定に保たれるということは、深度に応じてナイトロックス混合比率が変わります。

たとえば、ppO₂設定を1.0barにすると、深度10m/33フィートの海水でのオープンループ50%ナイトロックスに相当します。

▲ 注意

すべてのリブリーザーは、使用する前にその専用の研修を受ける必要があります。リブリーザー装置でダイビングする際は、適切な認定を受け、メーカーの推奨事項と手順に従ってください。これに従わないと、重症や死亡にいたる危険があります。リブリーザーでは、複数のガスを使用し、ガス交換と等しいベイルアウト手順と多くのテクニカルダイビング技術を要します。したがって、前章の考慮事項と警告はすべてリブリーザーダイビングにも当てはまります。

CCRモードを有効にする

CCRモードを有効にすると、酸素設定にディリュエントタンクが表示されます。

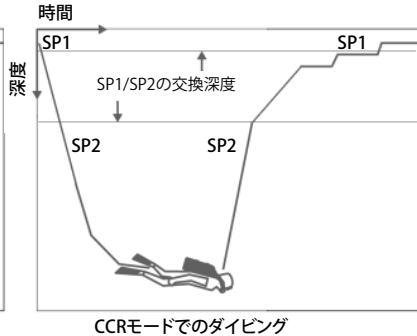
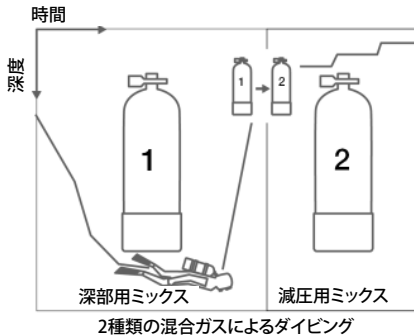
このモードを有効にする方法は、「CCR」の章を参照してください。

ダイブ開始時のセットポイント (SP1) は、ppO₂を0.2~0.95 barの範囲内で選択できます。ボトムセットポイント (SP2) は、ppO₂が1.0~1.6 barの範囲内であり、通常はボトムへの潜降中か、最大深度に達したときに有効にします。

SP交換深度は、オープンサーキットモードでガス交換が提案される場合と同じように (予定されたガス交換)、ダイブコンピューターから提案されます。

スイッチポイントは、オープンサーキットモードでの等価酸素比率に基づいて決定されます。したがって、潜降中にスイッチポイントに達するとき、その深度でのガスの等価酸素比率が21% O₂レベルに達しています。

たとえば、エアディリュエントでSP1が0.5 barの場合、海水では約13.8m/45.3フィートです。



3.5 警告とアラーム

G2は、危険な状況が発生したときに、警告とアラームでそれを通知します。警告とアラームの設定は、メニューで変更することも、PCインターフェースを使って変更することもできます。

3.5.1 警告設定

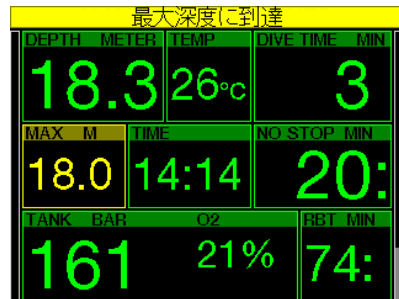
警告の状況は、ダイバーの注意を必要としますが、これを見落としてもすぐに危険になる訳ではありません。ダイバーの判断で、それぞれの警告を有効にするか決定できます。

警告は、ポップアップ画面の上部の、通常であればボタンのテキストが表示される場所に表示されます。警告は黄色で表示され、関連するデータウィンドウも同時にハイライトされます。

一般に、警告は音、表示、両方 (音と表示) またはオフに設定できます。

利用できる警告は以下のとおりです。

3.5.2 最大深度



最大深度で警告が発生します。警告の深度を設定する方法については、「最大潜水深度警告」の章を参照してください。

3.5.3 CNS O₂ = 75%

G2は体内に蓄積された酸素量をCNSO₂クロックでトラッキングします。計算したCNS O₂の値が75%に達すると、G2は値が75%を下回るまで警告を続けます。

CNS O2 = 75%			
DEPTH	METER	TEMP	DIVE TIME MIN
23.9		77°F	21
CNSO2	LEVEL STOP	TAT MIN	
75%	2: 6	27:	
	MINUTE	METER	
TANK+	PSI	O2	RBT MIN
2959		21%	3:

3.5.4 ノーストップ = 2分

減圧不要 = 2分			
DEPTH	METER	TEMP	DIVE TIME MIN
17.4		26°C	20:
HR+ BT/MN	TIME	NO STOP MIN	
97	18:10	2:	
TANK BAR	O2	RBT MIN	
95	21%	93:	

意図しない減圧ダイビングを避けるために、減圧不要時間が2分に達したときに警告するようG2を設定できます。これはL0減圧不要時間とMB減圧不要時間の両方に適用されます (MBレベルでのダイビングについては「MBレベルでのダイビング」の章を参照してください)。これにより、減圧停止やレベル停止の義務が発生する前に浮上を開始することが可能になります。

3.5.5 減圧停止が必要になった

最初の減圧停止義務が発生したときに警告するようG2を設定できます。この警告により、水面に直接浮上できなくなったことがダイバーに通知されます。この警告は、ダイブコンピューターをL0~L9に設定してダイビングを行う場合にのみ該当します。

3.5.6 潜水時間

この警告時間を設定する方法については、「最大潜水時間警告」の章を参照してください。

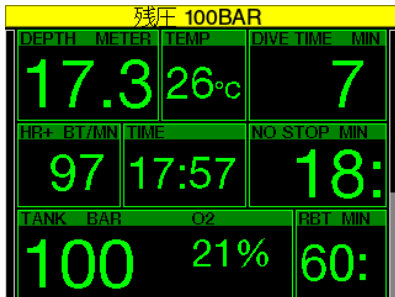
制限時間に到達			
DEPTH	METER	TEMP	DIVE TIME MIN
29.8		76°F	30:
PDIS M	LEVEL STOP	TAT MIN	
13	1: 3	8:	
	MINUTE	METER	
TANK1+	PSI	O2	RBT MIN
2886		36%	--:

設定した潜水時間に達すると(上の例では30分)、「制限時間に到達」というメッセージが表示されます。

折り返し時間			
DEPTH	METER	TEMP	DIVE TIME MIN
23.2		76°F	15
HR BT/MN	TIME PM	NO STOP MIN	
97	12:33	26:	
TANK1+	PSI	O2	RBT MIN
986		36%	0:

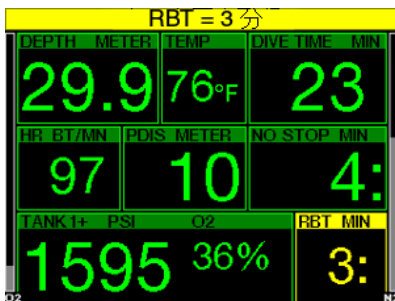
潜水時間の半分を過ぎると(上の例では30分に設定 = 15分)、「折り返し時間」というメッセージが表示されます。

3.5.7 タンク残圧



G2は、タンク残圧が特定のレベルに達すると警告を発することができます。たとえば、フルにしたタンク残圧の半分にリマインダーを設定し、ゆっくりと浮上を始める時間を伝えるように設定することができます。

3.5.8 RBT = 3分

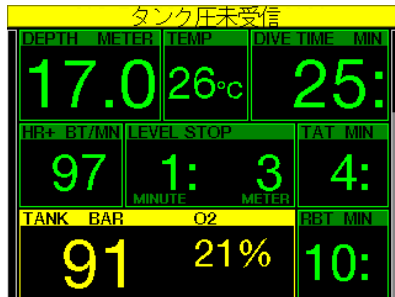


ガスの供給が低下していることを適切に警告するために、G2はRBT(残り潜水時間)が3分を切ると警告を発することができます。RBTについて詳しくは、「RBT = 3分」の章を参照してください。

▲ 注意

RBTが3分を切ると、安全に浮上を完了するために必要なガスが残っていない可能性があります。この警告を見たときは、速やかに浮上を開始してください。

3.5.9 タンク圧シグナル



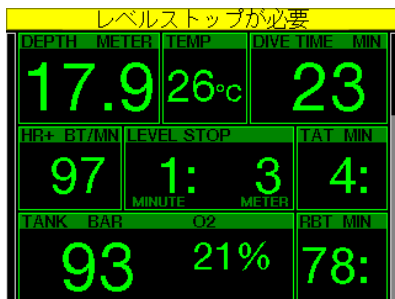
トランスミッターの位置が正しくない場合や、強力なRF源からの干渉を受ける場合など、特定の状況では、ワイヤレスタンク残圧情報が一時的に中断する可能性があります。たとえば、水中写真の撮影に使用するストロボは、G2とワイヤレストランスミッターとの通信に一時的に影響を与えることが知られています。

注：G2が30秒以上トランスミッターからの信号を受信しないと、音声がおフになり、「タンク圧未受信」というメッセージが12秒間表示されます。さらに40秒経ってもG2がトランスミッターからの信号を受信できなかった場合、さらに音が鳴り、「タンク圧不明」というメッセージが12秒間表示され、その後はRBTが表示されなくなり、タンク残圧は「--」と表示されます。

▲ 注意

「タンク圧未受信」の状況では、G2に格納されたタンク残圧関連情報はすべて有効ではなくなります。このような場合、バックアップ計器を使用して残圧をモニタリングし、水面まで安全に浮上してください。水中でガス切れを起こすと危険であり、重症や死亡にいたる場合があります。

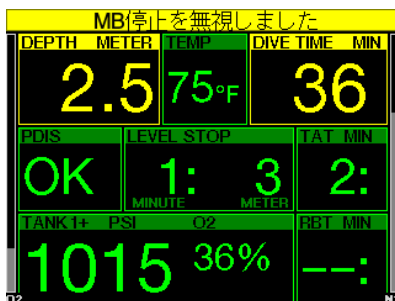
3.5.10 レベルストップが必要



L0以外のマイクロバブル(MB)レベルでダイビングする場合、MB減圧不要時間が終了したときに警告するようにG2を設定できます。詳しくは、「MBレベルでのダイビング」の章を参照してください。

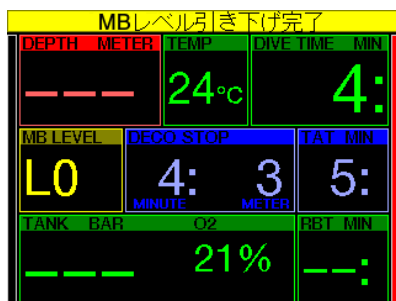
3.5.11 MB停止を無視

MBレベルをL0より高く設定してダイビングしており、MBレベルストップが必要なとき、最初のMBレベルストップ深度より上に浮上すると警告を発するようにG2を設定できます。これにより、必要なストップを忘れることを予防できます。

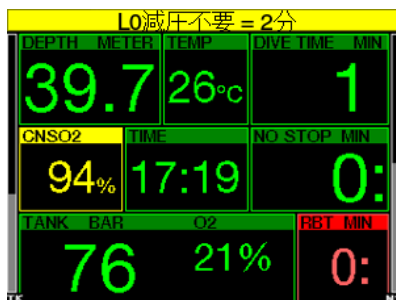


3.5.12 MBレベル引き下げ完了

MBレベルをL0より高く設定してダイビングしており、MBレベルストップが必要なとき、最初のMBレベルストップ深度より1.5m/5フィート以上上に浮上すると、G2はMBレベルを次に可能なレベルに引き下げます。ディスプレイに、新しいアクティブなMBレベルが表示されます。

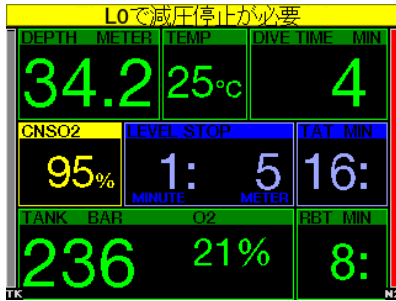


3.5.13 L0ノーストップ = 2分



MBレベルをL0より高く設定してダイビングするときは、基準のL0情報はディスプレイに直接表示されません(ただし、代替情報として参照できます)。MBレベルがL0より高いダイビングでは、基準のL0減圧不要時間が2分に達したときに警告するようにG2を設定できます。

3.5.14 L0で減圧が必要



MBLレベルをL0より高く設定してダイビングするとき、基準のL0情報はディスプレイに直接表示されません(ただし、代替情報として参照できます)。アクティブなMBLレベルがL0より高いダイビングで、減圧停止が必要になる直前に警告を発するように、G2を設定できます。

3.6 アラーム

アラームは、ダイバーがすぐに対処する必要がある状況を知らせるものであり、ダイバーがオフにすることはできません。

ポップアップ画面の上部の、通常であればボタンのテキストが表示される場所に表示されます。アラームは赤で表示され、関連するデータウィンドウも同時にハイライトされます。

次の7種類のアラームがあります。

- ・ 浮上が速い!
- ・ MOD超
- ・ CNS O₂ = 100%
- ・ タンクリザーブ到達
- ・ 減圧停止違反!
- ・ RBT = 0分
- ・ バッテリー低下

▲ 注意

- ・ ゲージモードでは、バッテリー低下、タンクリザーブ、ハーフタンク、最大深度、最大潜水時間、タンク圧シグナルアラームを除くすべての警告とアラームがオフになります。
- ・ G2を「SOUND OFF」モードに設定すると、すべてのアラーム音と警告音がオフになります。

3.7 浮上速度

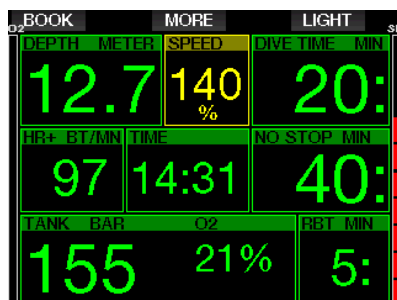
ダイビング中に浮上すると、環境圧が低下します。浮上速度が速すぎると、圧力の急激な低下によってマイクロバブルが形成されます。逆に、浮上速度が遅すぎると、高い環境圧への曝露が長期化することにより、体内の細胞の一部(または全部)に窒素がより多く蓄積されます。したがって、マイクロバブルの形成を最低限に抑えつつ、窒素の蓄積も最低限に抑えられる最適な浮上速度があります。

深度が浅いより深い方が、より大きな圧力低下があってもマイクロバブルが大量に発生せず、ダイバーの体への影響が少なくなります。重要な要因は、圧力がどれくらい低下したのではなく、環境圧に対する圧力低下の比率です。このことから、深度が深いところでは、浅いところより最適浮上速度が速くなります。

これに基づき、G2では変動のある浮上速度を採用しています。浮上速度の範囲は3～10m/分(10～33フィート/分)です。以下の表に、深度範囲とそれに対応する速度を示します。

深度		浮上速度	
m	ft	m/分	ft/分
0	0	3	10
2.5	8	5.5	18
6	20	7	23
12	40	7.7	25
18	60	8.2	27
23	75	8.6	28
31	101	8.9	29
35	115	9.1	30
39	128	9.4	31
44	144	9.6	32
50	164	9.8	32
120	394	10	33

浮上速度が最適値の110%を超えると、速度ウィンドウが黄色になります。



浮上速度が140%を超えると、「浮上が速い」警告が表示され、浮上ウィンドウが赤く変わります。



最適な浮上速度の110%を超えるとアラーム音も鳴ります。アラーム音は、最適浮上速度からの超過率に比例して強くなります。

浮上速度が速すぎる場合、マイクロバブルが形成される危険があるため、減圧不要範囲内であっても減圧停止が指示される場合があります。

深い深度からの場合、ゆっくり浮上すると体内残留窒素量が増え、減圧停止時間と合計浮上時間の両方が長くなります。浅い深度からの場合、ゆっくり浮上することで減圧停止時間が短くなります。

浮上速度オーバーが長時間続くと、ログブックに記録されます。

▲ 注意

最適浮上速度は、いかなる場合でもオーバーしてはなりません。血管内にマイクロバブルが形成され、重症や死亡にいたる危険性があるためです。
浮上速度が最適値の110%以上である限り、アラームは鳴り続けます。

3.7.1 MOD/ppO₂

▲ 注意

- MODより深い場所へ潜降しないでください。このアラームを無視すると、酸素中毒の危険があります。
- ppO₂が1.6barを超えると、突然のけいれんにより、重症または死亡にいたる危険性があります。

MOD超			
DEPTH METER	TEMP	DIVE TIME MIN	
30.3	26°C	0	
MOD M	TIME	NO STOP MIN	
29.0	15:26	14:	
TANK BAR	O ₂	RBT MIN	
116	36%	--:	

MODを超えると、深度が赤く変わり、「MOD超」というアラームテキストが表示されます。

MODは代替表示ウィンドウに表示されるため、どれくらい超過したのかがわかります。さらに、ビープ音も鳴り続けます。MODより上に浮上するまで、深度の点滅とビープ音が続きます。

3.7.2 CNS O₂ = 100%

▲ 注意

CNS O₂が100%に達すると、酸素中毒の危険性があります。ダイビングを中止する手順を始めてください。

G2は体内に蓄積された酸素量をCNS O₂ クロックでトラッキングします。計算されたCNS O₂の値が100%に達すると、ビープ音が12秒間鳴り、O₂ウィンドウでCNS O₂の値が赤くなります。CNS O₂の値が100%を下回るまで、値は赤く表示されたままです。

CNS O ₂ = 100%!			
DEPTH METER	SPEED	DIVE TIME MIN	
6.8	45%	5	
CNSO ₂	TIME	NO STOP MIN	
102%	17:45	199:	
TANK BAR	O ₂	RBT MIN	
103	100%	99:	

音声信号は最初に鳴った後、CNS O₂の値が100%以上である限り(あるいはppO₂が0.5bar未満に下がるまで)、1分間隔で5秒間鳴り続きます(一般的なナイトロックスでppO₂が0.5barと等しくなる深度の一覧は、「ナイトロックスでのダイビング」の章を参照してください)。

3.7.3 タンクリザーブ圧に到達した

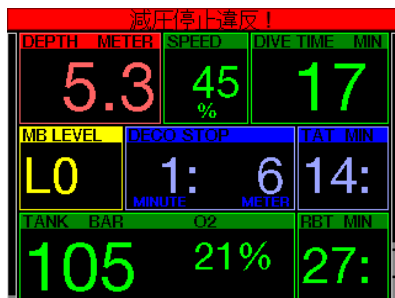
タンクリザーブ圧の上限を設定する方法については、「タンクリザーブ」の章を参照してください。ダイブ中に設定した圧力に達すると、アラームが起動します。

タンクリザーブ到達			
DEPTH METER	TEMP	DIVE TIME MIN	
16.7	25°C	17	
HR+ BT/MIN	TIME	NO STOP MIN	
97	14:28	11:	
TANK BAR	O ₂	RBT MIN	
26	21%	--:	

3.7.4 減圧停止を怠った

▲ 注意

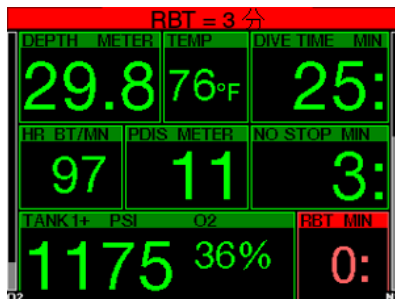
減圧停止の指示を無視すると、重症や死亡にいたる危険性があります。



必要な減圧停止を行うときに、指示された停止深度より0.5m/2フィート以上上に浮上すると、G2はアラームを発します。現在の深度の値が「減圧停止違反」というテキストとともに表示され、ピープ音が鳴ります。この状態は、必要な停止深度より0.5m/2フィート以上上にいる限り続きます。

3.7.5 RBT = 0分

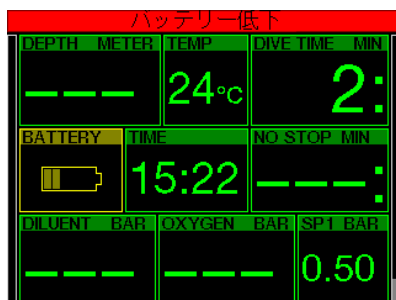
RBTが0分に達したときの反応を、警告またはアラームから選択できます。この設定について詳しくは、「RBT警告またはアラーム」の章を参照してください。



3.7.6 バッテリー低下

▲ 注意

陸上で画面に「バッテリー低下」警告が表示されているときは、ダイビングを始めないでください。コンピューターの機能がダイビング中に停止する可能性があり、重症や死亡にいたる危険性があります。



ダイビング中、G2は次の2種類の方法でバッテリー状態について注意を促します。

1. 画面に警告の背景色でバッテリーシンボルを表示する。
2. ディスプレイ上部(通常であればボタンのテキストが表示される場所)に警告メッセージを表示する。

3.8 表示情報

G2を水に入ると、以前の状態を問わず、ダイブモニターが自動的に開始します。表示される情報について詳しくは、次のセクションで説明します。

潜水時間: 潜水時間は分単位で表示されます。ダイビング中に水面に浮上した場合、5分(*)以内に再び0.8m/3フィートより深く潜降した場合に限り、水面で経過した時間がカウントされます(*初期設定。3~30分の間に設定可能)。これにより、水面に短時間浮上して位置確認することができます。水面では、潜水時間のカウントは止まっているように見えますが、実際にはバックグラウンドでカウントは続いています。再び潜水すると、水面での時間を含めてカウントが再開されます。0.8m/3フィートより上で5分(または設定した時間)以上経過すると、そのダイビングは終了したとみなされ、ログブックが終了します。その後潜降しても、潜水時間はゼロからカウントされます。

表示できる最長潜水時間は999分です。これより長いダイビングでは、潜水時間のカウントが0分から再開します。

2分以上のダイブのみがログブックに保存されます。

深度: メートル法での深度は10cm刻みです。フィート表示では常に1フィート刻みです。0.8m/3フィート未満の深度は「---」と表示されます。G2の最大行動可能深度は120m/394フィートです。

減圧不要時間: 実測値で計算され、4秒ごとに更新されます。表示される最長減圧不要時間は99分です。

水温: G2は、ダイブ中の水温と水面での気温を表示します。ただし、機器を手首に装着してダイバーの皮膚と接触している場合、皮膚温度が測定値に影響を与えます。

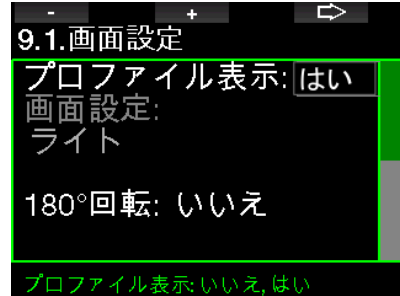
減圧情報: G2が減圧停止の必要があると判断すると、最も深い減圧停止の深度と時間が画面に表示されます。また、合計浮上時間も示します。

▲ 注意

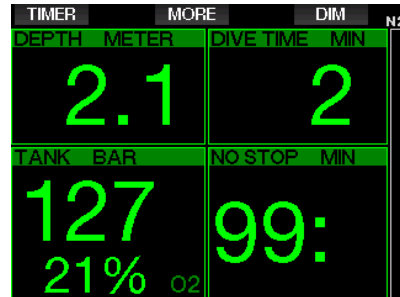
減圧停止が不要な場合を含め、すべてのダイビングで、深度3~5m(10~15フィート)で3~5分間の安全停止を行ってください。

3.8.1 ダイビング中の表示設定

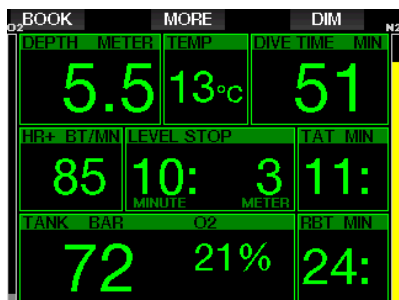
G2では、**ライト**、**クラシック**、**フル**、**グラフィカル**という4種類の画面設定オプションから選択できます。また、必要に応じて表示を回転させて、画面の下にボタンを表示させることもできます。



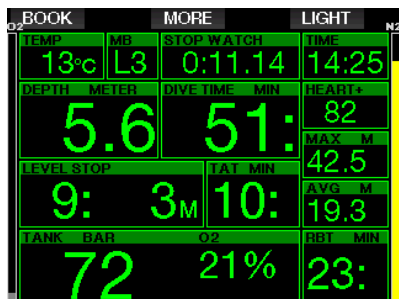
初期設定は**ライト**画面設定です。基本情報のみが大きい数字で表示されます。減圧が必要になり、ディスプレイに表示すべき情報が増えると、ディスプレイが自動的に**クラシック**設定に変わります。



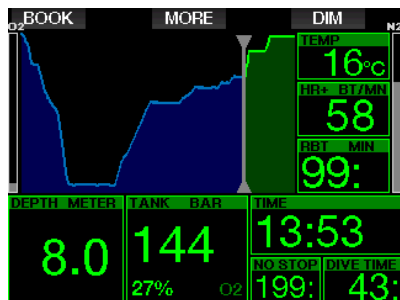
クラシック画面設定では、小さいウィンドウに小さい数字を使い、より多くの情報が表示されます。



フル画面設定には、最も多くの情報が表示されます。この画面は、G2が提供できるすべてのパラメーターをモニタリングしたいダイバー向けです。



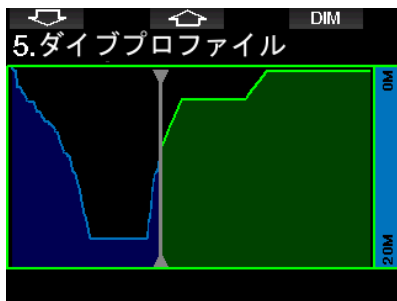
グラフィカル画面設定では、数値情報と実際のダイブプロファイルを組み合わせて表示します。グラフィカルプロファイルではダイバーの位置が灰色のカーソル線で表現されます。水面までに予定される浮上と停止は、カーソル線の右側に表示されます。



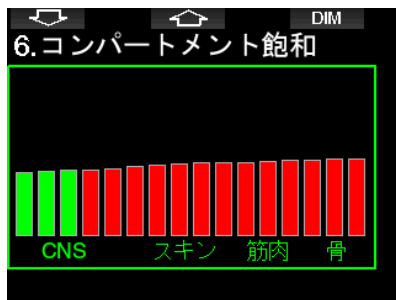
画面設定を問わず、G2は1つのウィンドウでダイブに関する追加情報を表示します。MOREボタンを押すと、別画面に次のデータが順に表示されます。

画面設定	ライト	クラシック	フル	グラフィカル
1	タンク残圧	最大深度	O ₂ %	最大深度
2	最大深度	O ₂ %	PDIS	O ₂ %
3	PDIS	PDIS	平均深度	PDIS
4	水温	心拍	皮膚温度	心拍
5	心拍	皮膚温度	バッテリーレベル	皮膚温度
6	皮膚温度	バッテリーレベル	CNS%	バッテリーレベル
7	バッテリーレベル	ストップウォッチ	ppO ₂	ストップウォッチ
8	アクティブなMBレベル:L0以外の場合	アクティブなMBレベル:L0以外の場合	OTU	アクティブなMBレベル:L0以外の場合
9	MB L0情報	MB L0情報		MB L0情報
10	時刻	時刻		時刻
11	CNS%	CNS%		CNS%
12		平均深度		平均深度
13		ppO ₂		ppO ₂
14		OTU		OTU

MOREボタンを長押しすると、ダイブプロフィール(またはMB/PMG設定によってはガス/減圧一覧表示)が起動します。この画面は12秒間表示され、ボタンを押さない限り通常のダイブ表示に戻ります。



矢印ボタンによって、次のディスプレイであるコンパートメント飽和にスクロールできます。それぞれのバーの高さは、最大許容量に対する現在の残留窒素量をパーセントで示しています。緑色のコンパートメントはガスを排出しており、赤いコンパートメントはガスを取り入れています。



次のディスプレイには、G2のフラッシュメモリーに保存された画像の一覧が表示されます。ダイブ中に表示できる画像の保存方法と保存場所について詳しくは、「**USBフラッシュディスクの操作**」の章を参照してください。

中央のボタンを長押しして、画像一覧に入ります。矢印ボタンを押すと、表示したい画像を選択できます。中央のボタンを長押しすると、選択した写真を表示できます。



画像は次のような目的で使用できます。

- ・ 魚を見分ける
- ・ ダイブポイントのマップ
- ・ タスク/チェックリスト
- ・ メモ

その他の水中での活動いくつか例を示します。



注：プロファイル、コンパートメント飽和、画像は最大1分間表示でき、その後は通常のダイブ画面が再び表示されます。別画面を表示している間に警告やアラームが発生すると、G2は即座に通常のダイブ画面に戻ります。

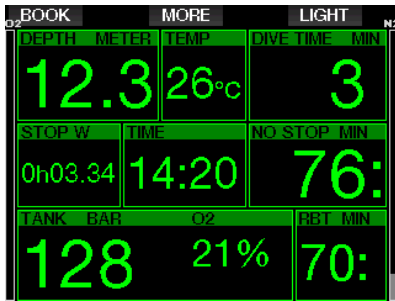
3.8.2 ブックマークを設定する

BOOKボタンを押すと、ダイブ中のある特定の瞬間を記憶しておくブックマークを好きな数だけ設定できます。これらのブックマークは、LogTRAKのダイブプロファイルに表示されます。

3.8.3 ストップウォッチタイマー

ダイブ中は、簡単なストップタイマーがあると便利な場面が多々あります(ダイブ講習中に時間を測定する作業など)。

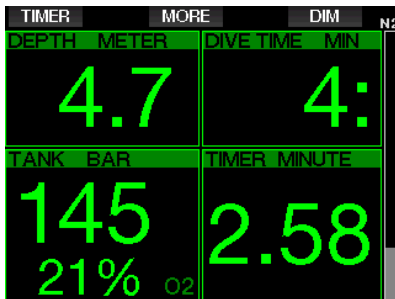
G2のスキューバモードにはストップタイマーが搭載されています。ストップタイマーはMOREボタンを押して起動できます。表示されているストップタイマーのカウントは、BOOKボタンを押すとリセットできます。タイマーは水に入れるとカウントを始めます。



ストップタイマーでブックマークが生成され、LogTRAKのダイブプロフィールに表示されます。

3.8.4 安全停止タイマー

ダイビング中に最浅深度10m/30フィートより深く潜降すると、深度5m/15フィートで安全停止タイマーのカウントダウンが自動的に始まります。その後6.5m/20フィートより深く潜降すると、タイマーが消え、減圧不要時間が再び表示されます。5m/15フィートに浮上すると、タイマーが再び自動的に起動します。



安全停止タイマーはTIMERボタンを押して再起動できます。

3.8.5 バックライト

メニュー8.3(バックライト点灯時間)では、バックライトの時間と機能を選択できます。標準のバックライト強度は低く、LIGHTボタンを押して明るくできます。

注: ディスプレイは、(バッテリー残量が1区画まで減少して)省電力モードが起動すると完全にオフになり、右ボタンを押すと10秒間点灯します。

3.8.6 コンパス

ダイブ中にLIGHT/DIMボタンを長押しすると、コンパスが起動します。ディスプレイがコンパス画面に変わり、大きな方位目盛とダイブの基本的な数値情報が表示されます。



3.9 MBLレベルでのダイビング

マイクロバブル (MB) とは、ダイビング中にダイバーの体内に蓄積される小さな気泡であり、通常は浮上中に、またはダイビング後の水面休息中に自然に消えます。減圧停止の指示を順守し、減圧不要時間内に行ったダイビングでも、静脈血循環でのマイクロバブルの形成を防ぐことはできません。

これが動脈循環に移動すると、危険なマイクロバブルとなります。静脈血循環から動脈循環にマイクロバブルが移動する原因としては、肺に大量のマイクロバブルが集まるためです。SCUBAPROは、これらのマイクロバブルからダイバーを守る最新テクノロジーをG2に搭載しています。

G2を使用すると、特定のニーズに応じてMBレベルを選択でき、マイクロバブルに対して一定レベルの保護が提供されます。MBレベルを使ったダイビングには、追加の浮上停止 (レベルストップ) が含まれます。これにより、浮上プロセスが遅くなるため、体内残留窒素の排出時間が長くなります。これはマイクロバブルの形成とは逆の作用となり、安全性が向上します。

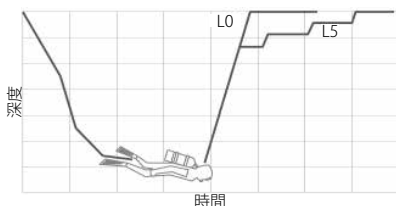
G2には10段階のマイクロバブルレベルがあります (L0~L9)。レベルL0は、SCUBAPROの定評ある減圧モデル「ZH-L16 ADT」に対応しており、マイクロバブルの形成によるレベルストップは不要です。レベルL1~L9では、マイクロバブルの形成に対する保護を強化しており、L9が最高となります。

減圧ダイビング中や減圧不要時間内のダイビング中の情報表示と同じように、G2はMB減圧不要時間が終了するとすぐに、1回目のレベルストップの深度と時間、および浮上の合計時間を表示します。MB減圧不要時間は通常の減圧不要時間より短いため、レベルL0を使うダイバーよりも早く、停止 (レベルストップ) を行う必要があります。

必要なレベルストップを無視しても、低いMBレベルにステップダウンするだけです。つまり、ダイビング前にレベルL4を選択して、ダイビング中にL4で推奨される停止を無視すると、G2の設定がL3より下の設定に自動調整されます。

3.9.1 MBLレベルL0とL5でのダイビングの比較

G2ダイブコンピューターを2つ同時に使用しており、一方のMBレベルをL5に、もう一方のMBレベルをL0に設定した場合、L5のダイブコンピューターの減圧不要時間はより短くなり、減圧停止が指示される前に、より多くのレベルストップが必要になります。このような追加のレベルストップにより、マイクロバブルが消失します。



3.10 PDIS (プロファイル依存中間停止)

3.10.1 PDISの概要

ダイブコンピューターの主な目的は、体内残留窒素量をトラッキングし、安全な浮上手順を推奨することです。無減圧限界内でのダイビングの場合は、ダイビング終了時に水面に直接浮上することができます。ただし、安全な浮上速度を守る必要があります。一方、減圧不要時間を超えたダイビング (減圧ダイビング) の場合、ダイビング終了前に特定の深度で減圧停止を行って、過剰な体内残留窒素を体から排出する必要があります。

いずれの場合にも、ダイビング中の最大深度から水面までの中間にあたる深度で、数分間停止すると効果的です。あるいは、減圧ダイビングの場合は、最初の (一番深い) 減圧停止の深度と水面の中間にあたる深度で数分間停止します。

このような中間停止は、この深度での周囲圧力が窒素排出を促すのに十分な低さであれば、たとえ圧力差が微小でもすぐに効果を発揮します。このような状況でも、体からゆっくりと窒素を排出しながら、サンゴを回遊してダイビングを楽しむことができます。

近年、いわゆる「ディープストップ」が一部のダイブコンピューターやテーブルに導入されています。ここでの「ディープ」とは、ダイビングで到達した最大深度と水面（あるいは最初の減圧停止を行う深度）の間にあたる深度と定義されます。深度30m/100フィートで2分経過しても15分経過しても、ディープストップはどちらも15m/50フィートとなります。

PDISでは、名前が示すように、G2がダイブプロファイルを解釈し、それまでの体内窒素蓄積量に対する関数として中間停止を提案します。従ってPDIストップは、ダイビング中、継続的に変化するダイバーの体の状態を反映して変化します。同様に、PDISでは前回のダイビングからの体内残留窒素も考慮します。従って、PDISは反復潜水にも依存します。従来のディープストップは、これらの要素を完全に無視しています。

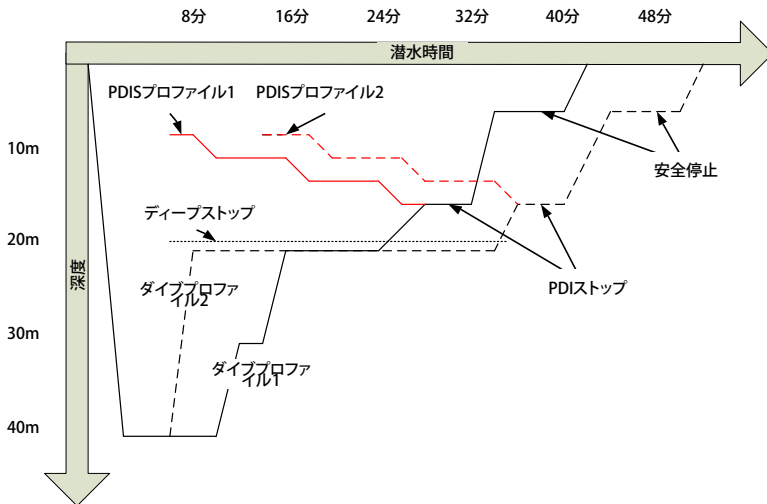
次の図は、2つのダイブプロファイル为例にとり、PDISを定量化し、体内に蓄積された窒素量との依存関係を示しています。また、この図から、PDISと初歩的な「ディープストップ」の概念的な違いもわかります。

この図では、最大深度40m/132フィートで2つのダイブプロファイルを比較しており、非常に異なります。プロファイル1では、深

度40m/132フィートに7分間滞在した後で、30m/100フィートに3分間、20m/65フィートに12分間滞在しています。プロファイル2では、深度40m/132フィートに2分間滞在した後で、21m/69フィートに浮上して33分間滞在しています。いずれのダイブプロファイルも、減圧不要時間内の減圧不要ダイビングです。

実線は、プロファイル1でのダイビング中にコンピューター画面に表示されるPDIS深度を示します。点線は、プロファイル2でのダイビング中にコンピューター画面に表示されるPDIS深度を示します。体内に窒素が蓄積するにつれ、表示されるPDIS深度は深くなりますが、その経過は2つのダイビングで大きく異なります。これは、2つのダイブプロファイルでの状況が異なるためです。プロファイル1では、25分の時点でPDIストップを行っていますが、プロファイル2では、37分でPDIストップを行った後、5m/15フィートで安全停止を行っています。

一方、小さいドットから成る線は、従来のディープストップ方式でコンピューターに表示されるであろう深度を示します。これは2つのダイブプロファイル両方で同じになります。ディープストップの場合、最大深度を除き、ダイブ自体に関する情報はすべて無視します。




3.10.2 PDISのメカニズム

G2に採用されている減圧計算モデル (ZH-L16 ADT MB PMG) では、体を16個の「コンパートメント」に分類し、適切な物理法則に従ってそれぞれのコンパートメントでの窒素の蓄積と排出を演算的に追うことにより、減圧ステータスをトラッキングします。さまざまなコンパートメントは、中枢神経系、筋肉、骨、皮膚といった身体の部位をシミュレーションしています。

PDIストップの深度は、減圧計算用の先行コンパートメントが窒素の蓄積から排出に切り替わる深度として計算されます。ダイバーは、表示された深度より浅い深度で、2分間の停止が推奨されます (これは、表示される深度より少し下に留まることが求められる減圧停止とは反対となります)。この中間停止中、ダイバーの体内の先行コンパートメントでは、窒素がそれ以上蓄積されず、(圧力差が微小でも) 排出されます。このことと、比較的高い周囲圧により、マイクロバブルの成長が阻害されます。

ハーフタイムが最大10分である4つの最速コンパートメントは、PDIストップの決定に考慮されません。これは、これらのコンパートメントが「先行」するのは非常に短いダイビングのみであり、中間停止がまったく必要ないためです。

 注: PDIストップは必ず停止する必要はなく、5m/15フィートで3~5分間行う安全停止の代わりにはなりません。

▲ 注意

PDIストップを行った場合でも、5m/15フィートで3~5分間の安全停止は必ず行う必要があります。すべてのダイビングの最後に5m/15フィートで3~5分間の安全停止を行うことは、自分の体を守るために最善の安全策となります!

3.10.3 複数の混合ガスを使ったダイビングでの特別な考慮事項 (G2)

ダイビング中に、酸素濃度が高い混合ガスに切り替えると、PDIストップが影響を受けます。このことは、ZH-L16 ADT MB PMGで複数のガスを処理する際の予測的な性質を念頭において考える必要があります。

複数の混合ガスを使ったダイビングでは、G2は次の原則に従ってPDIS深度を表示します。

- ボトムガス (ガス1) で計算されたPDIストップが交換深度より深い場合、この計算値が表示されます。
- ガス1で計算されたPDIストップが、ガス2への交換深度より浅い場合、表示されるPDIストップはガス2の関数となります。

混合ガスを交換できなかった場合は、現在呼吸している混合ガスでのPDIストップに戻ります。

3.10.4 PDISによるダイビング

☞ 注：PDIS機能を使用するには、PDISを有効化する必要があります（「PDIS」の章を参照してください）。

BOOK		MORE		DIM	
DEPTH	METER	TEMP	DIVE TIME		MIN
23.7		77°F	19		
PDIS M		LEVEL STOP		TAT MIN	
10		2: 6		25:	
		MINUTE		METER	
TANK+ PSI		O2		RBT MIN	
3510		21%		6:	

計算されたPDIストップが深度8m/25フィートより深ければ、この深度が画面に表示され、浮上中にこの深度に到達するまで表示されたままになります。G2はダイブ中に16個のコンパートメントにおける窒素の蓄積をトラッキングして表示しますが、この値は刻々と変化します。PDIS深度は常に最適な値を反映して更新されます。

BOOK		MORE		DIM	
DEPTH	METER	TEMP	DIVE TIME		MIN
13.3		75°F	33:		
HR BT/MN		PDIS		TAT MIN	
97		1.41 14		6:	
		MINUTE		METER	
TANK+ PSI		O2		RBT MIN	
1871		36%		--:	

PDIS深度は中央のウィンドウに表示されず、減圧不要ダイビング中にこの深度まで浮上すると、2分間のカウントダウンが表示されます。次の3つの状況のいずれかがあります。

BOOK		MORE		DIM	
DEPTH	METER	TEMP	DIVE TIME		MIN
12.3		75°F	35:		
PDIS		TIME PM		NO STOP MIN	
OK		12:54		199:	
TANK+ PSI		O2		RBT MIN	
1320		36%		--:	

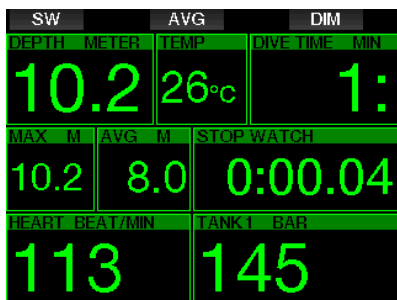
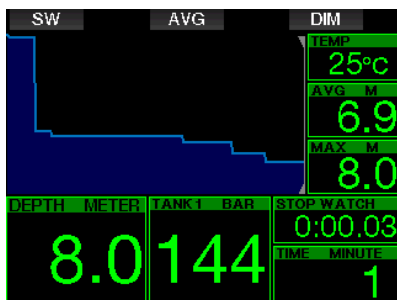
1. 規定の深度より上の3m/10フィート以内に、2分間滞在した。カウントダウンタイマーが消え、代替情報ウィンドウにPDISを実行したことを示すOKが表示されます。
2. PDISより0.5m/2フィート以上深い場所に潜降した。カウントダウンタイマーは消えます。次回、PDIS深度まで浮上すると、タイマーが再び表示されて2分間のカウントダウンが始まります。
3. PDISより3m/10フィート以上上に浮上した。PDISの値とカウントダウンタイマーは消えます。代替情報ウィンドウに、PDISが実行されていないことを示すNOが表示されます。

☞ 注：G2はPDIストップを無視すると警告を発します。

MBLレベルでのダイビングで、PDISは前述と同じルールに従います。MBLレベルによって、L0ベースのアルゴリズムより早く、より深い深度で停止が指示されます。そのため、PDISの表示が遅れる場合があり、ダイビングによっては一切表示されない可能性があります。これは、空気(酸素21%)を使い、MBLレベルをL5に設定して行う、深度の浅いダイビングなどです。

3.11 ゲージモード

ゲージモードで可能な画面設定は、グラフィカルとクラシックです。モードの切り替えについては、メニュー**9.1.(画面設定)**を参照してください。



G2をゲージモードに設定すると、深度、時間、温度のモニタリングのみが行われ、減圧計算は一切行いません。体内残留窒素が完全に排出されている場合のみ、ゲージモードに切り替えることができます。バッテリー低下、タンクリザーブ、 HALFタンク、最大深度、最大潜水時間、タンク圧シグナルアラームを除くすべての警告とアラーム(音と表示)がオフになります。

▲ 注意

ゲージモードでのダイビングは、ご自分の責任において実施してください。ゲージモードでダイビングを終了した後は、次に減圧コンピューターを使用してダイビングを行うまで48時間以上あけてください。

陸上でゲージモードにすると、体内残留窒素排出時間もCNS O₂%の値も表示されません。ただし、サーフィスイインターバルは最大24時間、NO FLY時間は48時間の間表示されます。この飛行機搭乗待機時間は、コンピューターモードに切り替え可能になるまでの時間でもあります。

ゲージモードでダイビングを終了した後は、一番上の行に潜水時間が表示されます。中央の行にはストップウォッチが表示され、潜水開始時間からの(または前回手動で再開してから)の時間がカウントされます。下の行には、最大深度が表示されます。5分間のタイムアウト後、ゲージメニューモードに変わります。

ゲージモードでのダイビング中は、G2にストップウォッチが表示されます。これはSWボタンを押してリセットまたは再起動できます。このボタンはブックマークの設定にも使用できます。

SWボタンを長押しすると、ガス交換手順を開始できます。

ゲージモードでは、平均深度をリセットできます。平均深度をリセットするには、AVGボタンを押します。このボタンはブックマークの設定にも使用できます。

AVGボタンを長押しすると、プロフィールが表示され、次に画像が表示されます。

ディスプレイ画面を消すには、DIMボタンを押します。DIMボタンを長押しすると、コンパス表示が起動します。



3.12 アプネアモード

G2には、高度なアプネアダイビングモードが搭載されており、機能アップグレードから有効化できます(メニュー**8.(その他の設定)**を参照してください)。主な特長としては、スキューバモードより高速なサンプリング速度や、アプネアダイビングに最適化されたアラーム機能などがあります。

アプネアモードでは、最大深度を正確に測るために、0.25秒間隔で深度を測定します。ログブックには1秒間隔でデータが保存されます。アプネアモードでは、MENUボタンを長押ししてダイビングを手動で開始/停止することもできます。これにより、通常の水深0.8mで始まるダイビングにはカウントされないスタティックアプネアダイブにもG2を使用できます。

ゲージモードと同じく、アプネアモードのG2は減圧計算を行いません。体内残留窒素が完全に排出されている場合のみ、アプネアモードに切り替えることができます。

アプネアモードでは、ダイビング終了後の陸上で、最大深度と潜水時間が表示されます。サーフィスインターバルカウンターは水面への浮上後にカウントを始め、心拍には現在の測定値が表示されます。

ダイブセッションの値(水温、合計潜水時間、ダイブ数、最低心拍など)が、下図のように白く表示されます。

アプネアモードでのダイビング中は、現在の深度、潜水時間、浮上または潜降速度、水温、最大深度、心拍が表示されます。

SKIN		DIM	
DEPTH METER	DIVE TIME MINUTE		
16.5	0.25		
SPEED METER/SEC	TEMPERATURE		
0.2	26°C		
MAX DEPTH METER	HEART BEAT/MIN		
20.2	67		

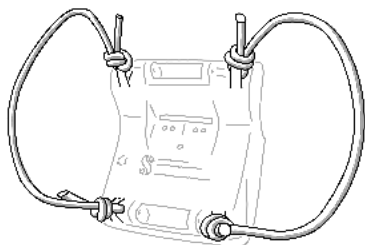
SKINボタンを押すと、SCUBAPRO心拍ベルトで測定された皮膚温度が心拍ウィンドウに表示されます。

SKIN		DIM	
MAX DEPTH METER	DIVE TIME MINUTE		
20.2	0.42		
MIN TEMP	TOTAL	INTERVAL MIN	
26°C	0	0.04	
DIVE NO	MIN HR	HEART BT/MIN	
1	66	179	

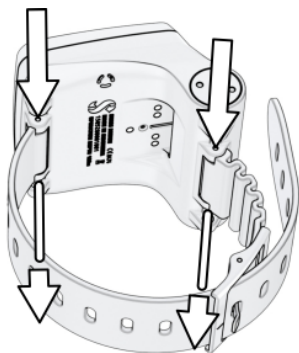
4. G2のオプション

4.1 バンジーアームストラップ

ネオプレン製ウェットスーツまたはドライスーツを着用するダイバーには、標準的なアームストラップよりバンジーの方が使いやすい可能性があります。G2はバンジーを機器の四隅に装着できるように設計されているため、安定感があります。



アームストラップを取り外すには、軸ピンを横に押し、バンジーリングから外します。



注：筐体のアームストラップ用軸ホールは対称的ではありません。アームストラップの軸を取り外すときは、径が小さい側から押しツールを入れてください。ピンを押し出すときに、反対側のバンジーリングを支持に使用しないでください。

4.2 ワイヤレス高圧トランスミッター

G2は、Smartシリーズのトランスミッターのワイヤレスタンク残圧に対応しています。PMG機能を有効にすると、最大8つのトランスミッターをG2で使用できます。

追加のトランスミッターはSCUBAPRO正規代理店から個別にご購入いただけます。

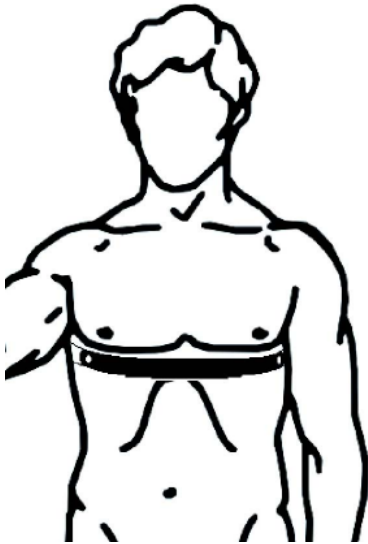


注：Smartトランスミッターには、Smart、Smart+（より長距離）、Smart+ LEDという3世代があります。G2はそのすべてのバージョンに対応しています。

4.3 皮膚温度・心拍ベルト

新しいSCUBAPRO心拍数ベルトには、特許取得済の皮膚温度測定および発信機能が搭載されており、G2に対応しています。

心拍ベルトを装着する位置は次の図のとおりです。快適にしっかりと固定できる位置にストラップを調整します。ダイビングスーツを着用する場合は、心拍ベルトを素肌に直接付ける必要があります。肌が乾燥している場合や、ドライスーツを着用するときは、電極部を湿らせてください。



G2側で心拍設定を有効化する必要があります。この手順は、「**運動負荷**」の章を参照してください。

ダイビング後は、心拍ベルトを淡水で洗って乾燥させ、乾いた場所で保管してください。

バッテリーキャップ付きの心拍ベルトのバッテリー交換は、SCUBAPRO正規代理店に依頼してください。

ユニットまたはパッケージで、心拍ベルトの動作条件と深度等級を確認してください。

4.4 Bluetooth USBスティック

PCに搭載されたBluetoothドライバーのバージョンが4.0より古い場合、Bluetoothアダプタ4.0以降をWindows OS 8以降と組み合わせて使用する必要があります。

それ以前のOSでは、BlueGigaタイプのアダプタが必要になります。



☞ 注：古い内蔵Bluetoothモジュール（4.0より前のドライバー）が搭載されたパソコンでは、外付けのUSB Bluetoothスティックが必要です。

5. G2のインターフェースとLOGTRAKの概要

LogTRAKとは、G2がさまざまなOSと通信することを可能にするソフトウェアです。LogTRAKには、Windows版、Mac版、Android版、iOS版があります。次のセクションでは、Windows版とMac版のLogTRAKについて説明します。Android版とiPhone/iPad版のLogTRAKの機能は似ていますが、Windows版/Mac版の機能がすべて搭載されているわけではありません。

LogTRAKを使用して実行できる作業：

- タイププロファイルのダウンロード
- G2のパーソナライズ（所有者情報、緊急時の情報）- 現時点ではWindows版/Mac版のみ
- G2の警告の有効化 - Windows版/Mac版のみ

その他の機能は、WindowsまたはMacからフラッシュドライブに直接アクセスして実行できます。

- G2ファームウェアのアップデート
- 画像のダウンロード
- G2の機能アップグレード
- 特別な言語アップグレード
- 追加の色テーマ
- スタートアップ画像のパーソナライズ

これらの機能を利用するには、Windows/MacとG2の間に通信を確立する必要があります。

5.1 G2をUSBインターフェースを介して充電・使用する

G2とWindows/Macの間で充電・通信を行うには、G2に付属するUSBケーブルを使用します。

G2を充電器につなぐ前に、USBコンタクトピンを柔らかい布で拭き、乾燥させてください。



⚠ 注意

コンタクトピンの表面に汚れがあると、電気抵抗が上昇し、汚れが焼き付くか固くなって後で取り除くのが難しくなります。長時間問題なく操作を楽しむために、G2を充電する前にコンタクトピンを清掃してください。

⚠ 注意

G2は必ず乾燥した清潔な場所で充電してください。

コネクタをボタンの裏にある溝に差し込みます。



コネクタを差し込む正しい方法は下図のとおりです。



5.2 Bluetooth

メニュー**13. (Bluetooth)**を選択すると、Bluetooth機能が有効になり、「状態: イニシャライジング」が数秒間表示されます。その後、G2が通信可能になります。Bluetoothは、このメニューが表示されている場合にのみアクティブです。

G2を接続したいデバイスをスキャンモードに設定します。G2の接続先を選択したら、下図のようにG2のディスプレイ画面にピンコードが表示されます。



他方のデバイスでコードが受け付けられたら、このリンクは通信が可能になり、以下のディスプレイがG2の画面に表示されます。



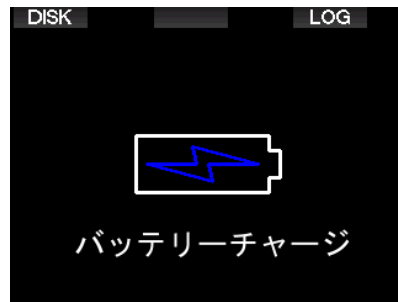
☞ 注: Bluetooth接続がアクティブではない状態が3分間続くとタイムアウトします。その後、G2はBluetoothを無効にして、省電力のために標準の時刻画面に戻ります。

5.2.1 G2にLogTRAKから接続する

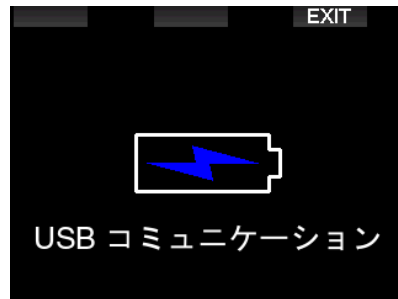
LogTRAKへの接続にはBluetoothまたはUSBを使用できます。

USBで通信を開始するには:

1. USBケーブルでG2に接続します。この時点でG2の画面に次のディスプレイが表示されます。



2. 「LOG」というラベルの右ボタンを押します。G2のディスプレイに次のような画面が表示されます。



3. LogTRAKを起動します。
4. LogTRAKがG2を検出したことを確認します。
Extras -> Options -> download
5. 自動的に検出されていない場合、「Rescan plugged device」を実行します。



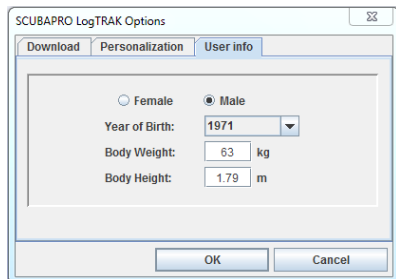
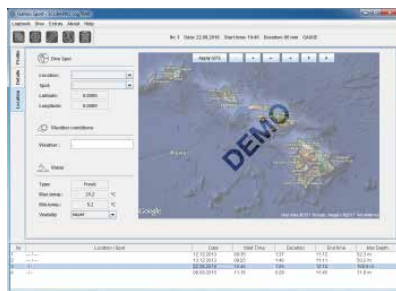
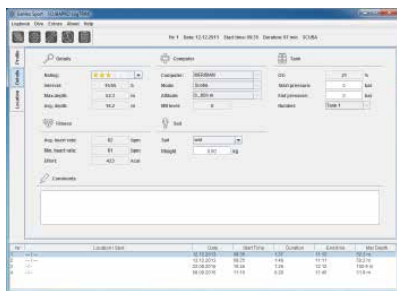
5.2.2 ダイブプロフィールをダウンロードする

LogTrakで[Dive] -> [Download Dives]の順に選択して、G2のログブックをWindows/Macに転送できます。

3つのメイン画面があり、それぞれダイブログの特定の部分を表示します。

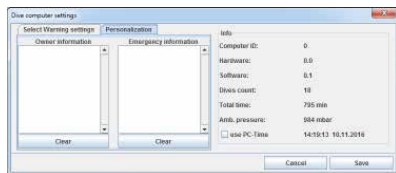
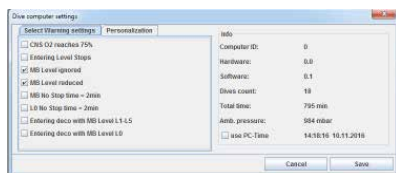
1. 「Profile」には、ダイビングのグラフィカルなデータが表示されます。
2. 「Details」では、器材やタンクなどの情報を編集できます。
3. 「Location」では、世界地図にダイビングポイントが表示されます。

ビューの選択タブはメインウィンドウの一番上にあります。



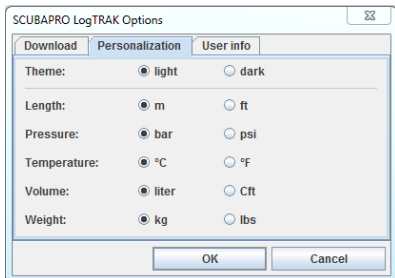
5.2.3 G2で警告/設定を変更し、コンピューター情報を読む

[Extras] -> [Read dive computer settings]を選択すると、G2本体のメニューでは変更できない警告を有効化/無効化できます。



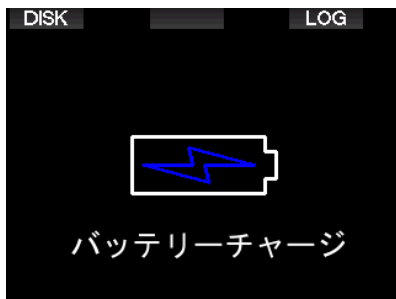
G2で変更できる選択については、「警告とアラーム」の章を参照してください。

表示単位をメートルかインペリアルに変更することもできます。[Extras] -> [Options] -> [measurement units]の順に選択します。



5.2.4 USBフラッシュディスクの操作

1. USBケーブルをG2に接続します。G2に次のようなディスプレイが表示されます。



2. ディスクを選択します。G2に次のようなディスプレイが表示されます。



3. PCまたはMacはG2フラッシュメモリーを通常のUSBメモリースティックとして認識します。

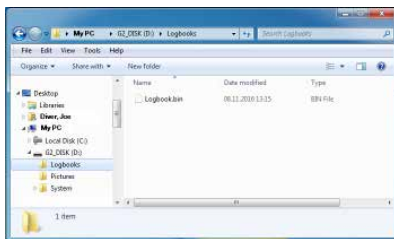
4. ブラウザーでG2フラッシュディスクを選択できるようになります。

G2のフラッシュディスクに、Logbooks、Pictures、Systemという3つのフォルダがあります。

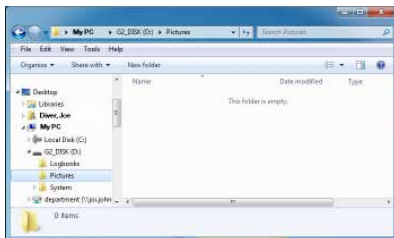
▲ 注意

G2のシステムフォルダは削除しないでください。システムフォルダを削除すると、G2が正しく機能しなくなります。データが削除されると、G2でのダイビングが安全ではなくなります。

ログブックフォルダは非表示ファイルです。バックアップコピーを作成できますが、削除してはいけません。

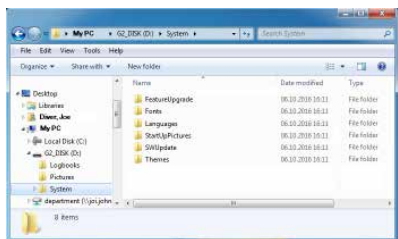


Picturesフォルダには、ダイビング中にG2で表示できる画像(魚、水中の植物、地図)を保存できます。



jpg、bmp、gif形式がサポートされます。画像は320 x 240ピクセルのサイズで保存する必要があります。

Systemフォルダには、複数のサブフォルダがあります。



www.scubapro.comで提供されているデータを次のフォルダにコピーして、機能を追加したり、アップデートを適用することができます。

- FeatureUpgrade
- Fonts
- Languages
- SWUpdate
- Themes

StartUpPicturesフォルダにカスタム画像を保存して、G2のスタートアップ画像をパーソナライズできます。

6. G2のお手入れ

6.1 フラッシュメモリフォーマット

フラッシュメモリ書き込みプロセス中にG2の通信が遮断されるか、フラッシュメモリーの使用中にG2のバッテリーが切れると、メモリーの内容が破損する場合があります。このような場合は次の警告が表示されます。



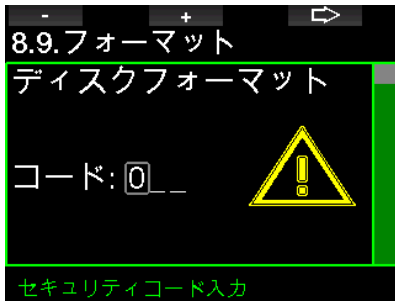
⚠ 注意

フラッシュディスクが破損したときは、G2を使用しないでください。フラッシュメモリーにアクセスできない場合、G2が正しく動作しない可能性があります。操作を誤ると、正しくない情報が表示される可能性があります。ダイビング中にこれが起こると、重症または死亡にいたる危険があります。

🔑 注：フラッシュディスクの破損を回避するには、1) 安全に取り外してメディアを取り出す機能を使用し、2) G2のバッテリーを充電した状態に保ち、意図しないリセットを防止します。

フラッシュディスクが破損したときは、メニュー**8. (その他の設定)**に次のメニューが表示されます。

8.11 フラッシュメモリフォーマット



この操作を続けるには、セキュリティコード313が必要になります。

⚠ 注意

フラッシュに保存したすべてのデータが消去されます。これには、すべてのダイブログが含まれます。G2データの損失を防止するには：

- 1.PC/Macにバックアップを保存します。
- 2.LogTRAKでダイブログをダウンロード・保存します。

6.2 技術情報

動作可能高度：

減圧あり：海拔およそ4000m/13300フィートまで。

減圧なし(ゲージモード)：無制限。

最大動作深度：

120m/394フィート。99.9mまで：0.1m刻み。100m以上：1m刻み。フィートの場合、常に1フィート刻み。精度2% ±0.2m/1フィート以内。

減圧計算範囲：

0.8～120m/3～394フィート

時計：

クォーツ時計、時刻、日付、潜水時間(999分まで表示)

酸素濃度：

8%～100%の間で調整可能

ヘリウム濃度：

0%～92%の間で調整可能

動作可能温度：

-10℃～+50℃/14F～122F

電源：

リチウムイオンバッテリー、USB経由で充電可能

フル充電したバッテリーの動作時間：

最大50時間バッテリーの実際の動作時間は、主に動作温度とバックライト設定に依存しますが、他にも多くの要因があります。

6.3 メンテナンス

2年に一度、SCUBAPRO正規代理店を通じ、深度の精度を確認してください。

タンク残圧ゲージおよびタンク圧の測定に用いられるパーツは、2年に一度またはダイビング200回ごとに(どちらか早い方)、SCUBAPRO正規代理店による点検が必要になります。

ユーザーによるG2のメンテナンスはほとんど必要ありません。必要なことは、ダイビング後に必ず淡水でしっかり洗い流すことと、必要に応じてバッテリーを充電することです。故障を防ぐために、次の推奨事項を守ると、長期間にわたって問題なく使い続けることができます。

- ・ 落としたり衝撃を与えないでください。
- ・ 強い直射日光にさらさないでください。
- ・ 密封された容器に入れて保管せず、換気を保ってください。
- ・ 水検知で問題が発生した場合、せっけん水で洗浄し、完全に乾燥させてください。水検知部にはシリコングリースを塗布しないでください。
- ・ 溶剤を含む液体で洗浄しないでください。
- ・ ダイビング前に、必ずバッテリー残量を確認してください。
- ・ バッテリー警告が表示された場合は、バッテリーを交換してください。
- ・ 画面にエラーメッセージが表示された場合、SCUBAPRO正規代理店までお持ちください。

6.4 トランスミッターのバッテリーを交換する

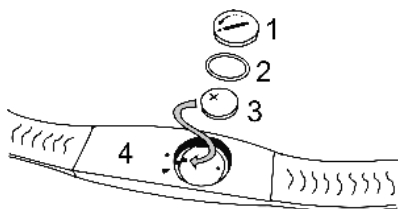


上の図には、トランスミッターの次の部分が表示されています。

- 1 トランスミッターキャップスクリュー
- 2 HPポートのOリング
- 3 メインOリング
- 4 CR 2/3 AAバッテリー
- 5 トランスミッターキャップ

高圧トランスミッターのバッテリーを交換するには：

1. トランスミッターを柔らかいタオルで乾かします。
2. スクリューを開きます。
3. メインのOリングを交換します（交換用Oリングは、SCUBAPRO正規代理店でお求めいただけます）。
4. 空のバッテリーを取り外し、環境を配慮した方法でリサイクルしてください。
5. 新しいバッテリーを入れます。極性に注意してください。本体に「+」とマークされています。バッテリーの極またはコンタクトを素手で触らないでください。
6. スクリューを締めます。
7. トランスミッターが機能し、ハウジングが密閉されていることを確認します。



▲ 注意

トランスミッターのバッテリー交換は、SCUBAPRO正規代理店にご依頼いただくようお願いいたします。水の浸入を防ぐために、バッテリー交換は細心の注意の下で行っております。ユーザー自身の不適切なバッテリー交換による損傷、それに起因する事故等については保証の範囲外かつSCUBAPROでは一切の責任を負いかねます。

7.1 心拍ベルトのバッテリーを交換する

上の図には、心拍ベルトの次の部分が表示されています。

1. バッテリーキャップ
2. Oリング
3. CR2032
4. 心拍ベルトの本体

心拍ベルトのバッテリーを交換する：

1. 心拍ベルトを柔らかいタオルで乾かします。
2. バッテリーキャップを開きます。
3. メインのOリングを交換します（交換用Oリングは、SCUBAPRO正規代理店でお求めいただけます）。
4. 空のバッテリーを取り外し、環境を配慮した方法でリサイクルしてください。
5. 新しいバッテリーを入れます。極性に注意してください。本体に「+」とマークされています。バッテリーの極またはコンタクトを素手で触らないでください。
6. バッテリーキャップを閉じます（閉じ位置のマークが合っていることを確認してください）。
7. 心拍ベルトが機能し、ハウジングが密閉されていることを確認します。

▲ 注意

心拍ベルトのバッテリー交換は、SCUBAPRO正規代理店にご依頼いただくようお願いいたします。水の浸入を防ぐために、バッテリー交換は細心の注意の下で行っております。ユーザー自身の不適切なバッテリー交換による損傷、それに起因する事故等については保証の範囲外かつSCUBAPROでは一切の責任を負いかねます。

7.1 保証

G2には、製品の品質と機能の不良をカバーする2年間の保証が付帯します。この保証は、SCUBAPRO正規代理店から購入したダイブコンピューターのみが対象となります。保証期間中に修理や交換を行っても、保証期間は延長されません。

以下の原因による故障や不具合は保証の対象外となります。

- 過度の摩耗
- 外装への影響 (輸送時の破損、強くぶつけたことによる破損、天候やその他の自然現象による影響)
- SCUBAPRO以外でダイブコンピューターをメンテナンス、修理、あるいは開いた場合
- 水中で行わない圧力検査
- ダイビング事故
- G2のハウジングやG2側面のメタルキャップを開く



欧州連合では、本製品の保証は各EU加盟国で施行されているEU法によって管理されます。

すべての保証は、日付を明記した購入証明書 (レシート) または製品保証書をSCUBAPRO正規代理店に提出する必要があります。お近くのディーラーは、www.scubapro.com でご確認ください。



あなたのダイビング器材は、リサイクルおよび再利用が可能な高品質なコンポーネントから製造されています。ただし、これらのコンポーネントは廃棄電子・電気機器の規制に従って正しく管理しなければ、環境および/または人間の健康に悪影響を与える可能性があります。欧州連合加盟国にお住まいのお客様は、EU指令2002/19/ECに従ってお近くの回収拠点に古い製品を返却することで、環境および健康保護に貢献していただけます。回収拠点とは、一部の製品販売店および地方自治体が提供するものです。左のリサイクルマークの付いた製品は、通常の家ごみとして廃棄してはいけません。

8. 用語

AMD	絶対最浅深度。酸素比率に基づき、混合ガスの使用を始めてもよい深度
AVG	平均深度。計算は、ダイビング開始時点から、あるいはリセット時点から開始されます。
CNS O ₂	中枢神経系に対する酸素有害度
DESAT	体内残留窒素排出時間。ダイビング中に蓄積された窒素を完全に排出するために必要な時間
潜水時間	0.8m/3フィートより深い場所での経過時間
ガス	ZH-L16 ADT MBアルゴリズムに設定されたメインガスを指す
現地時間	現地タイムゾーンでの時刻
最大深度	ダイビング中の最大深度
MB:	マイクロバブル。ダイビング中およびダイビング後にダイバーの体内に蓄積される小さな気泡
MBレベル:	SCUBAPROのカスタマイズ可能なアルゴリズムにおける9つのステップまたはレベル
MOD:	最大行動可能深度。酸素分圧 (ppO ₂) が最大許容レベル (最大酸素分圧) に達する深度。MODより深く潜ると、酸素分圧が危険なレベルになる
ナイトロックス:	酸素と窒素から構成される呼吸用ガス。酸素濃度は22%以上。本書では、空気もナイトロックスの一部と見なす
NO FLY	飛行機に登場するまでダイバーが最低限待機すべき時間
NO STOP時間:	ダイバーが現在の深度に留まることが許され、減圧停止を行わずに水面まで直接浮上しても良い時間
O ₂ :	酸素。
O ₂ %:	コンピューターがすべての計算に使用する酸素濃度
PDIS:	プロファイル依存中間ストップとは、G2が追加で指示するディープストップであり、第3、第4、第5のコンパートメントで窒素排出が始まる。
ppO ₂ :	酸素分圧。呼吸用ガスに含まれる酸素の圧力。深度と酸素濃度の関数。1.6barより高い酸素分圧は危険であるとみなされる。
最大酸素分圧:	酸素分圧の最大許容値。酸素濃度とともに、MODの定義に使用される。
押す:	いずれかのボタンを押して放す動作
長押し:	いずれかのボタンを1秒間押し続けてから放す動作
INT.:	サーフィスイントーバル。ダイビング終了時からの時間
SOSモード:	必須の減圧停止の一部を行わずにダイビングを終了すると、このモードになる
ストップウォッチ:	ダイビング中の任意の工程を計測するためなどに使用する。
交換深度	ZH-L16 ADT MB PMGアルゴリズムの複数ガスオプションを使用するときに、ダイバーが酸素濃度が高い方のガスに切り替える予定の深度

UTC:	協定世界時。旅行中のタイムゾーンの変化に対応する
TAT:	トータル浮上時間
RBT:	残り潜水時間
CCR:	クローズドサーキットリブリーザー
トライミック ス:	酸素、ヘリウム、窒素を含む混合ガス
PMG:	Predictive Multi Gas
OTU:	酸素有害度単位

9. 索引

AMD	20, 27, 61, 93
バックライト点灯	39, 51
警告クロック	25, 36, 18
警告	28, 32, 53, 64, 87
完全サイレントモード	18, 25
高度計	18, 32
浮上速度	68
バックライト	39, 40, 76
バッテリー	51, 68, 71, 91
ブックマーク	75
ボタン	11, 51
時計設定	18, 36
CNS O ₂	33, 50, 64, 70, 93
日付	36, 37
体内残留窒素排出	24, 49, 93
窒素排出リセット	24, 49, 93
ダイブプランナー	18, 45
高地でのダイビング	53
ダイビング後の飛行機搭乗	54, 12
ゲージモード	81, 11, 52, 54
ログブック	11, 18, 46
メンテナンス	90
MBレベル	77
マイクロバブル	77, 93
MOD	21, 59, 61
高所の湖	55
ダイビング禁止警告	12
ナイトロックス	18, 23, 55
ナイトロックス リセット時間	18, 23, 55
飛行機搭乗待機時間	12, 49, 54, 81
酸素濃度	59, 79, 90, 93, 55, 57
酸素分圧	22, 55
PCインターフェース	64, 84
最大酸素分圧	18, 22, 55, 93
安全停止タイマー	18, 22, 76
LogTRAK	84
SOSモード	12, 93
ストップウォッチ	51, 74, 93
サーフィスインターバル	18, 29, 50, 93
技術情報	90
時刻	51
タイムゾーン	18, 36, 37, 94
単位	18, 42, 43, 87
UTC	94
アラームクロック機能	25, 36, 18
水検知	18, 40
水の種別	18, 22

